

第3回土岐川庄内川流域委員会

治水計画について



河川法改正による旧制度から新制度への移行

旧制度

工事実施基本計画

内容 基本方針、基本高水、計画高水流量等
主な河川工事の内容

工事実施基本計画
の案の作成

河川審議会
(一級水系)

意見

工事実施基本計画
の決定

河川工事

新制度

河川整備基本方針

内容 基本方針
基本高水、計画高水流量等

河川整備基本方針
の案の作成

社会資本整備
審議会
(一級水系)
都道府県河川
審議会
(二級水系)

意見

河川整備基本方針
の決定・公表

都道府県河川審議会
がある場合

河川整備計画

内容 河川整備の目標
河川工事、河川の維持の内容

原案

意見

学識経験者

河川整備計画の
案の決定

意見

公聴会の開催等
による住民意見の反映

意見

地方公共団体の長

河川整備計画の
決定・公表

河川工事、
河川の維持

現在は移行中なので、工事実施基本計画を河川整備基本方針及び河川整備計画とみなす。

河川整備基本方針の内容とは

河川の整備についての基本となるべき方針に関する事項

を定めるもの

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

- 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減
- 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持
- 河川環境の整備と保全

2. 河川整備の基本となるべき事項

- 基本高水及びその河道と洪水調節施設への配分
- 主要な地点の計画高水流量
- 主要な地点の流水の正常な機能を維持するため必要な流量
- 主要な地点の計画高水位、計画横断形に係る川幅

河川整備基本方針は、社会資本整備審議会の意見を聴いて河川管理者が定める。



河川整備計画の内容とは

河川整備基本方針に即し、
具体的な河川整備に関する事項

を定めるもの

(概ね20～30年間の計画とされている)

20～30年までの整備計画

河川整備基本方針

河川整備の目標に関する事項

- 河川整備計画の対象区間、対象期間
- 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標
- 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
- 河川環境の整備と保全に関する目標

河川整備の実施に関する事項

- 河川工事の目的、種類及び施行の場所
- 当該工事による主要な河川管理施設の機能
- 河川の維持の目的、種類、施行の場所

河川整備計画は、

- ・河川に関し学識経験を有する者の意見
- ・公聴会の開催等による関係住民の意見

- ・関係都道府県知事又は関係市町村の意見

を聴いて河川管理者が定める。



既往洪水の概要

水害年表

発生年月日	原因	流域平均 日雨量 (mm)	枇杷島 地点流量 (m ³ /s)	多治見 地点流量 (m ³ /s)	被害等	
					愛知県	岐阜県
昭和50年 7月4日	梅雨前線	134.8	1,600	1,500	浸水面積3,092ha 浸水家屋10,315棟	浸水面積97ha 浸水家屋107棟
昭和58年 9月28日	秋雨前線 低気圧	154.5	1,900	1,400	浸水面積527ha 浸水家屋7,871棟	浸水面積8ha 浸水家屋164棟
昭和63年 9月25日	熱帯低気圧 秋雨前線	106.2	1,600	1,400	浸水面積318ha 浸水家屋1,896棟	浸水面積112ha 浸水家屋94棟
平成元年 9月20日	台風22号	119.8	1,900	1,800	浸水面積28ha 浸水家屋84棟	浸水面積62ha 浸水家屋571棟
平成3年 9月19日	台風18号 秋雨前線	156.3	2,200	1,100	浸水面積966ha 浸水家屋6,440棟	浸水面積4ha 浸水家屋16棟
平成11年 6月30日	梅雨前線	84.1	1,900	1,500	浸水面積0ha 浸水家屋1棟	浸水面積11ha 浸水家屋120棟
平成12年 9月12日	秋雨前線 台風14号	333.9	3,500	1,500	浸水面積10,477ha 浸水家屋34,041棟	浸水面積11ha 浸水家屋8棟

出典：時刻流量旬表、水害統計



既往洪水の概要

・伊勢湾台風(昭和34年9月洪水)

昭和34年9月26日洪水(伊勢湾台風)による大洪水で庄内川、新川は越波により13箇所で破堤し、浸水によって多数の人命が失われ、莫大な損害を受けた。愛知全県では死者3,168人、家屋の全壊・半壊123,577戸、床上浸水116,391戸に及んだ。



(宝神町地内破堤)

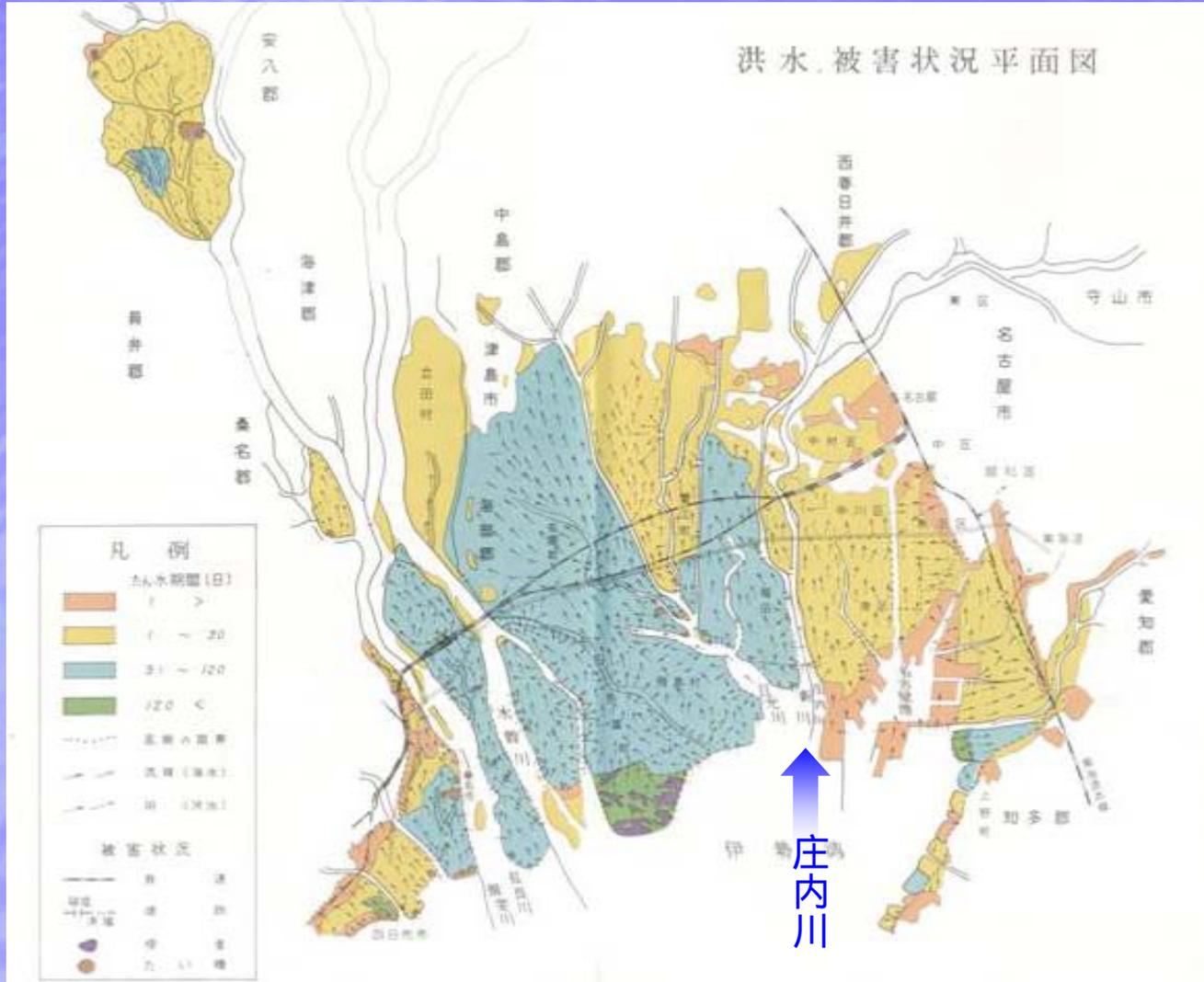


(名古屋市港区内)



既往洪水の概要

・伊勢湾台風による浸水域



資料) 伊勢湾台風復旧工事誌 建設省中部地方建設局



既往洪水の概要

・平成元年9月20日洪水(台風)

上流の土岐市内では時間最大44mm、総雨量144mmを記録し、支流中小河川が各所で氾濫し、床上・床下あわせて655戸が浸水した。流域平均雨量も約120mmに達し、枇杷島地点の流量は約1,900 m³/sに達した。



(土岐市内)

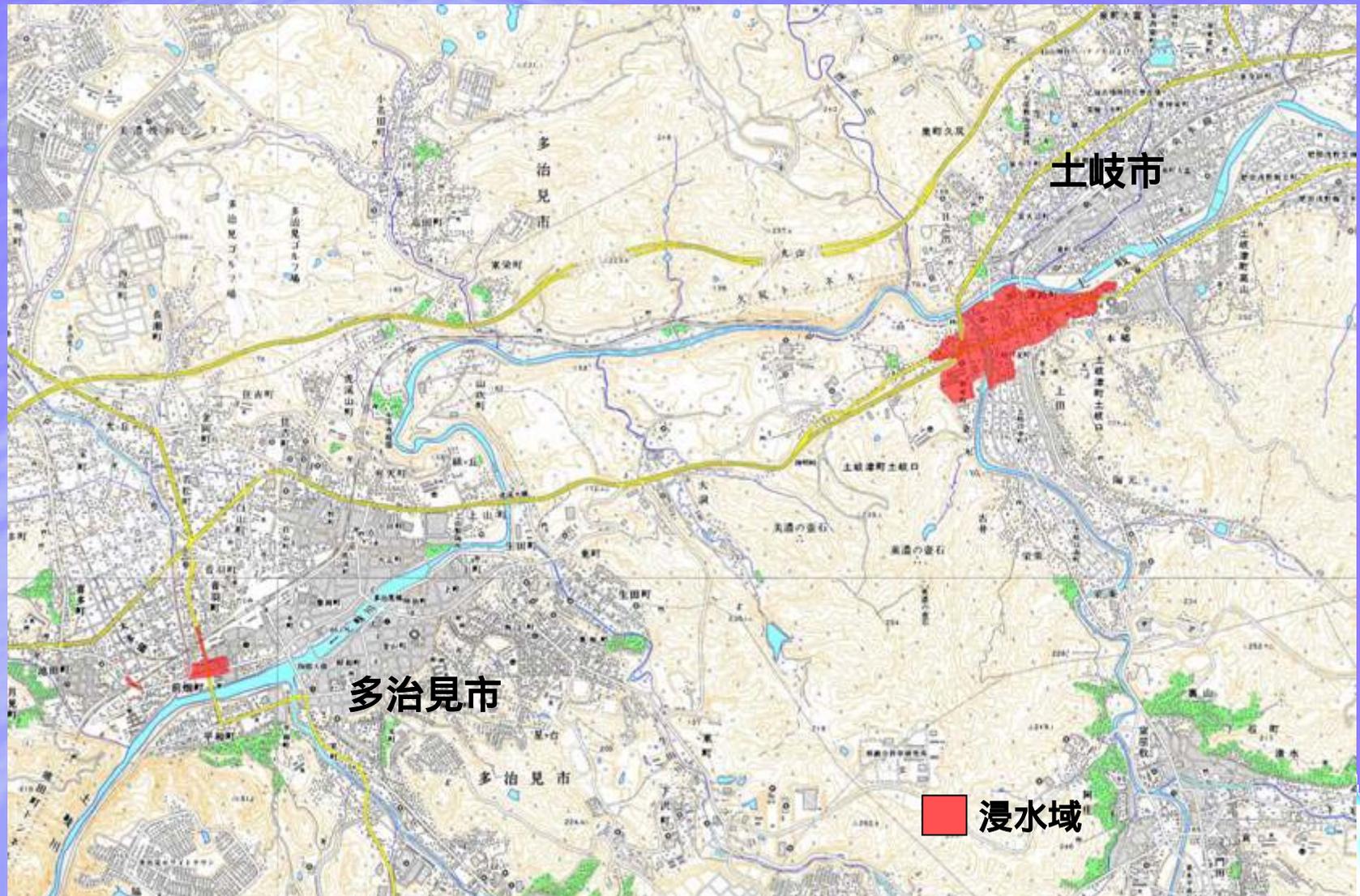


(万場大橋付近)



既往洪水の概要

- ・平成元年9月20日洪水による浸水区域



既往洪水の概要

・平成12年9月12日洪水

庄内川の越水、新川の破堤、内水氾濫による氾濫面積は10,488haに達しました。この水害によって約29,000人の住民が避難を強いられ、34,000棟を超える住家が被災。

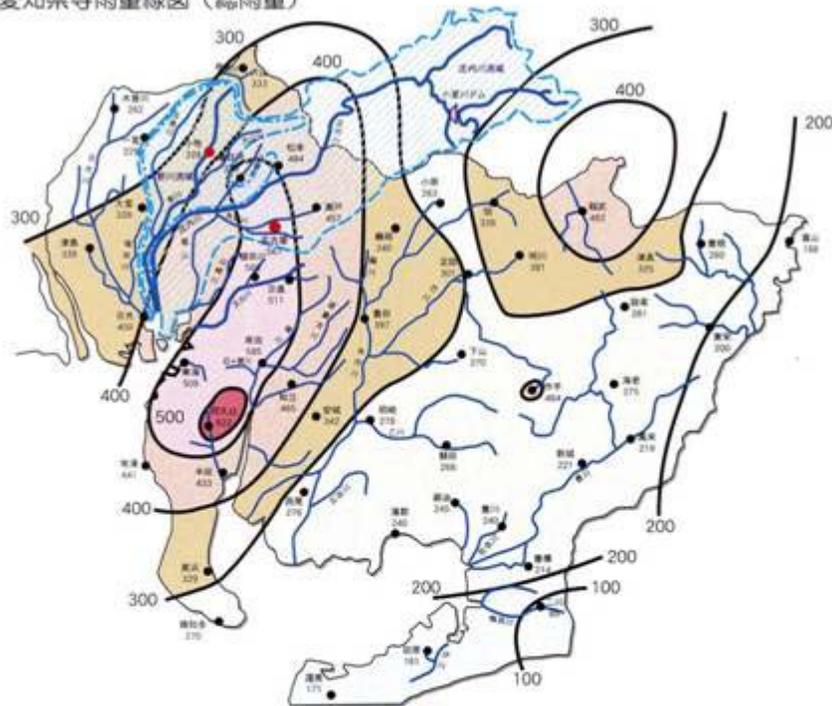
事業所の浸水被害を加えた被害総額は約6,700億円に及び、流域に深刻な傷跡を残しました。



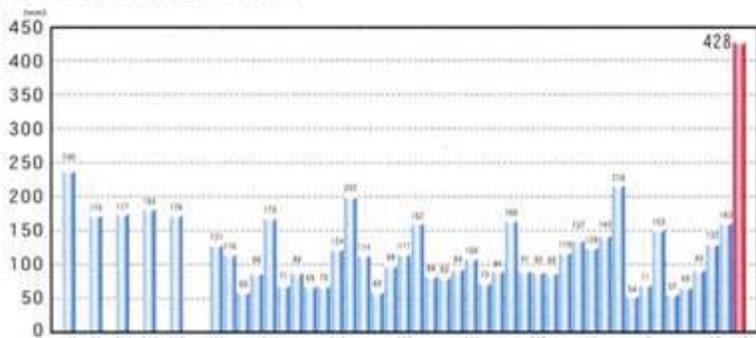
既往洪水の概要

・平成12年9月12日洪水(東海豪雨)

●愛知県等雨量線図(総雨量)



●名古屋地方気象台の日雨量



※観測史上(明治24年から)第10位までの観測データ及び昭和36年以降の観測データより作成

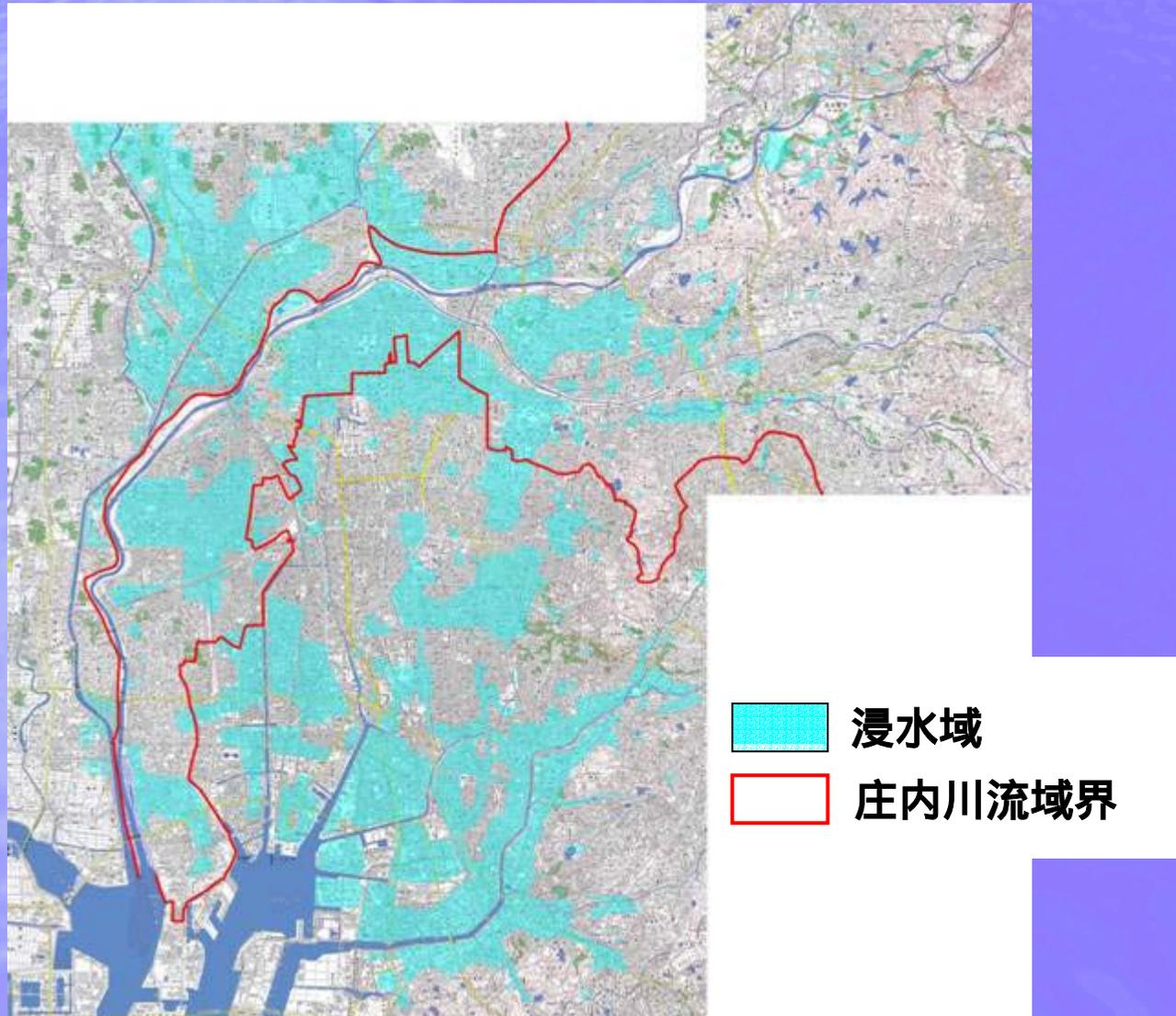
台風14号は、12日3時には那覇市の東南東にあり、935hpaと非常に大きな勢力を保ちながらゆっくりとした速度で西に進んだ。

一方、本州には秋雨前線が停滞し、この前線に向かって台風から暖かく湿った空気が多量に流れ込み、東海地方の大気の状態は非常に不安定な状態になった。

このため、庄内川・新川流域では、11日未明から記録的な豪雨となり、名古屋地方気象台では、11日19:00に時間最大雨量93mmを記録、11日未明から12日までの総雨量は、年間総雨量1,535mmの1/3に及ぶ567mmとなった。

既往洪水の概要

・平成12年9月12日洪水(庄内川・新川流域の浸水域)

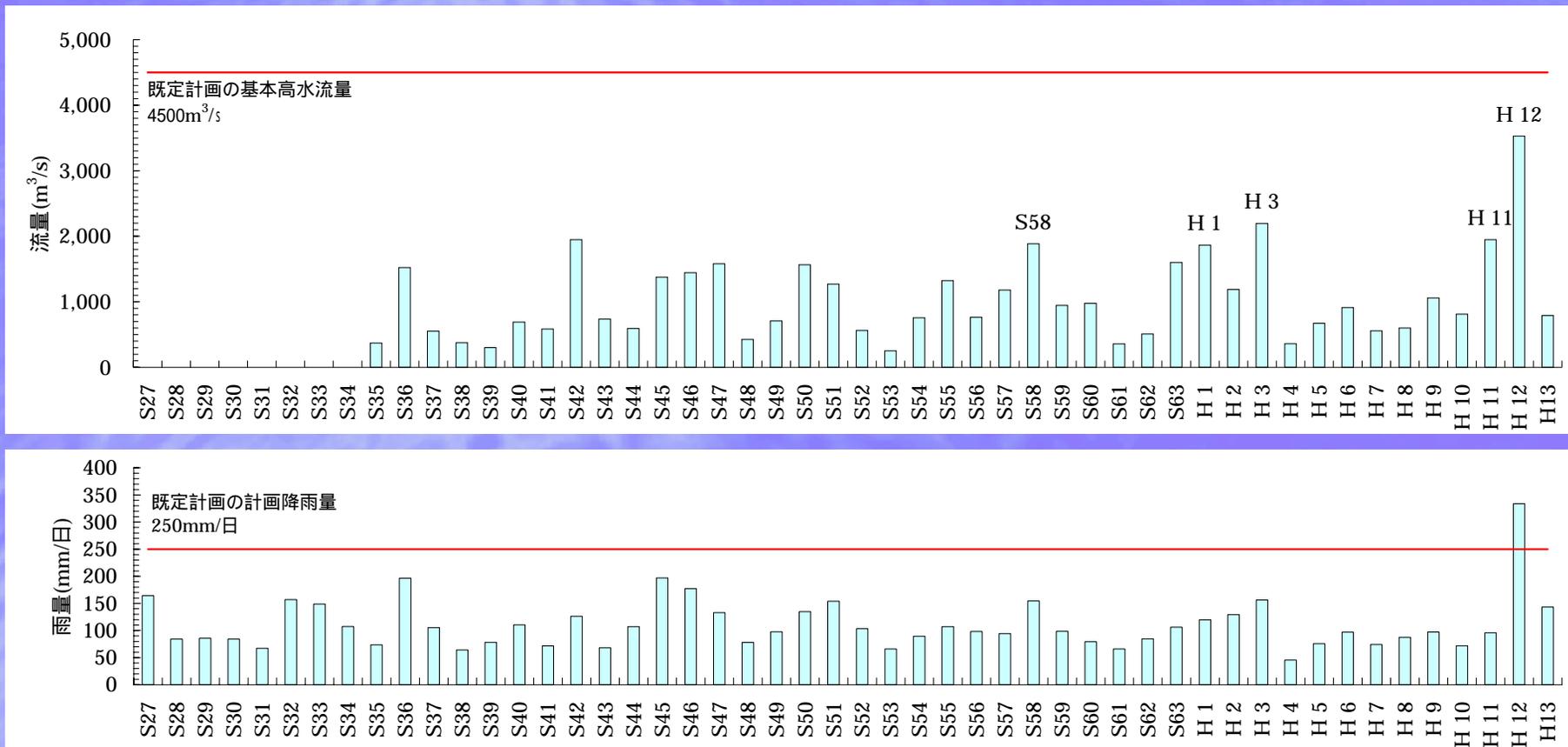


出典：愛知県新川流域浸水実績図、愛知県浸水実績図



近年の雨量・流量の状況

・枇杷島地点

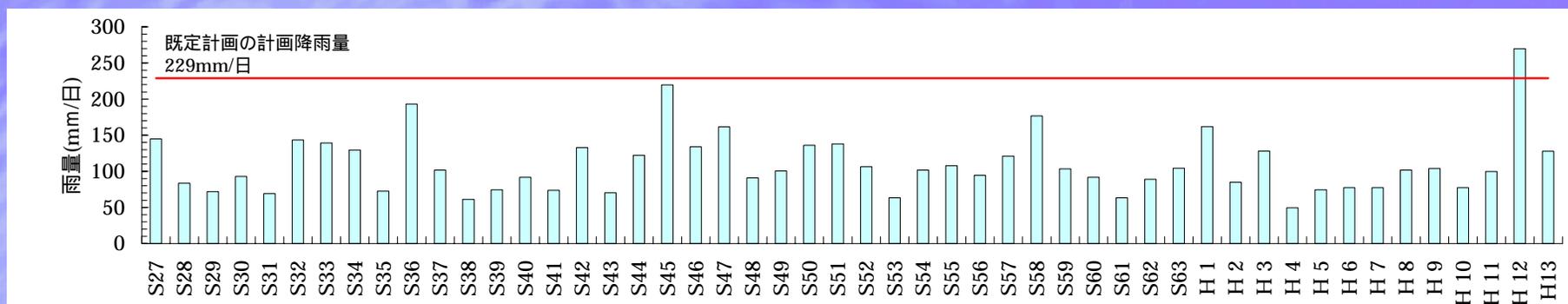
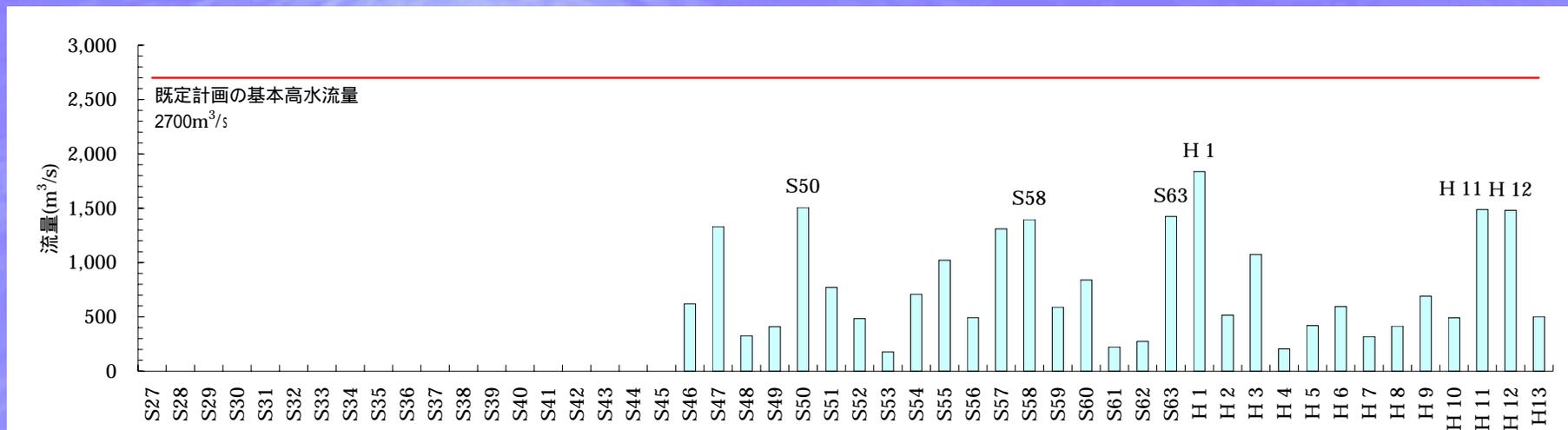


枇杷島地点では平成12年9月洪水(東海豪雨)が観測史上最大洪水で、それまでの最大流量の約1.5倍に達した。



近年の雨量・流量の状況

・多治見地点



多治見地点では平成元年9月洪水が最大流量を観測している。雨量では、平成12年9月洪水が計画を上回る規模の降雨である。



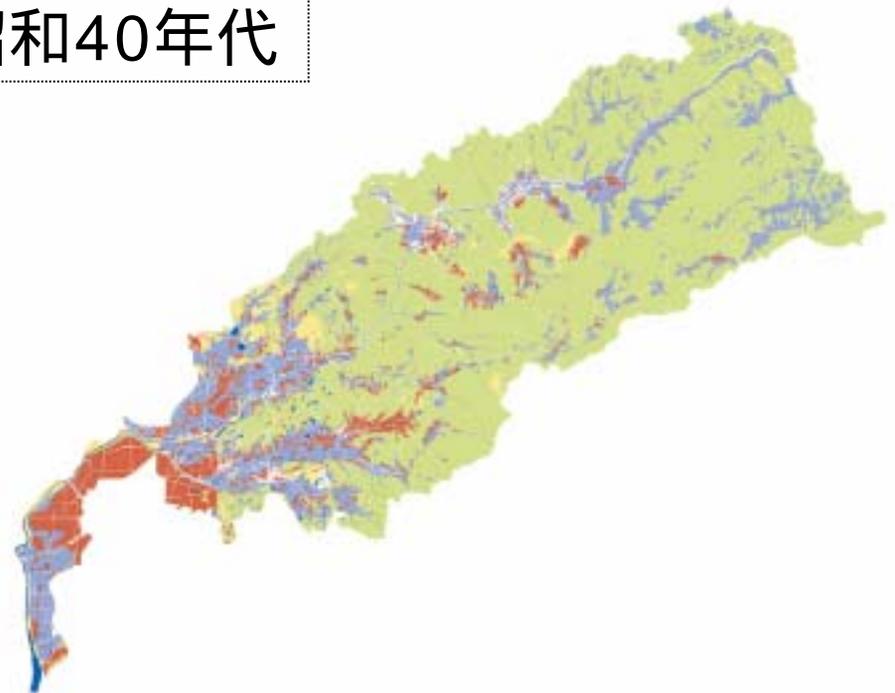
流域の土地利用図

・明治、昭和40年代

明治



昭和40年代

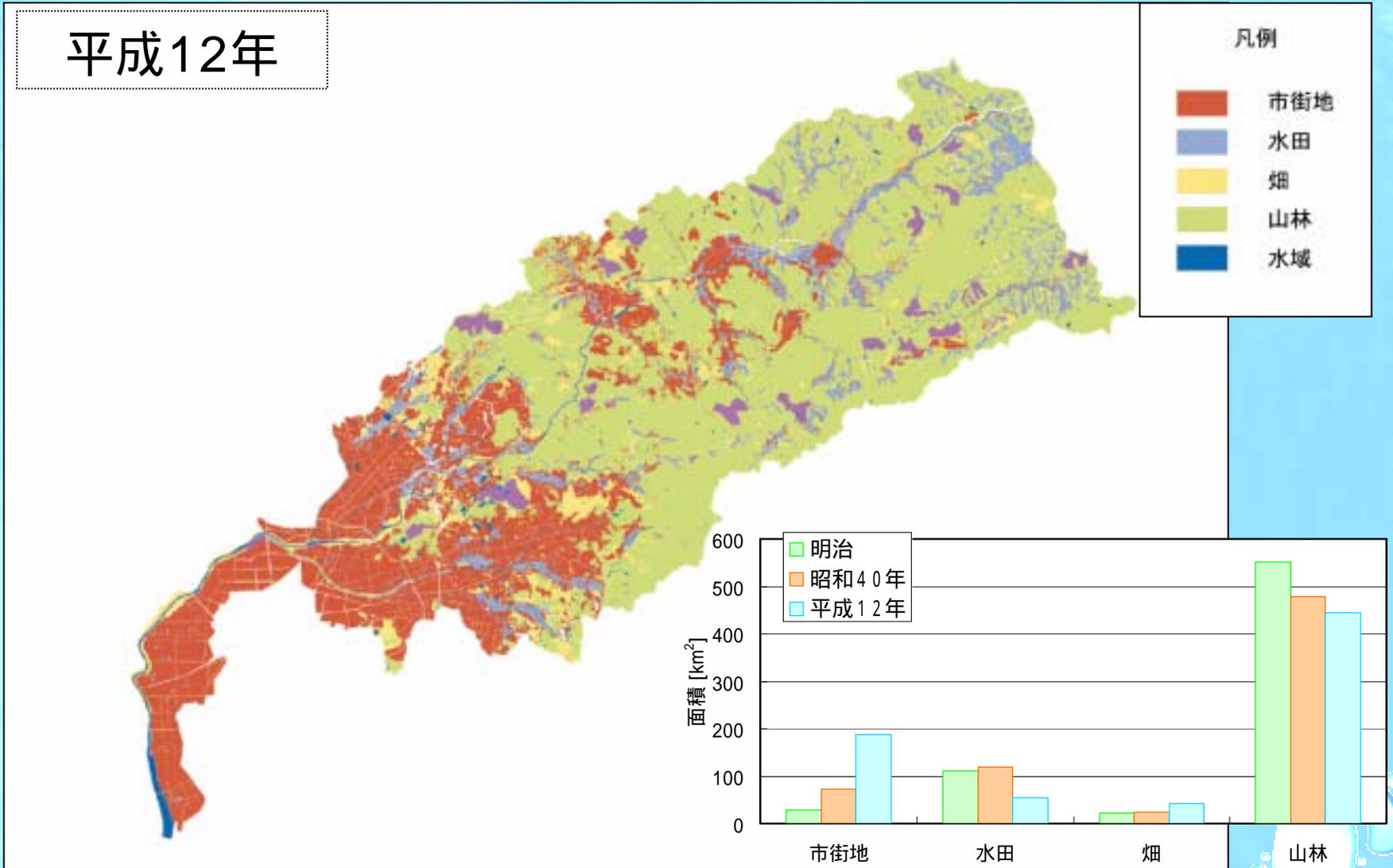


凡例

- 市街地
- 水田
- 畑
- 山林
- 水域

流域の土地利用図

・平成12年



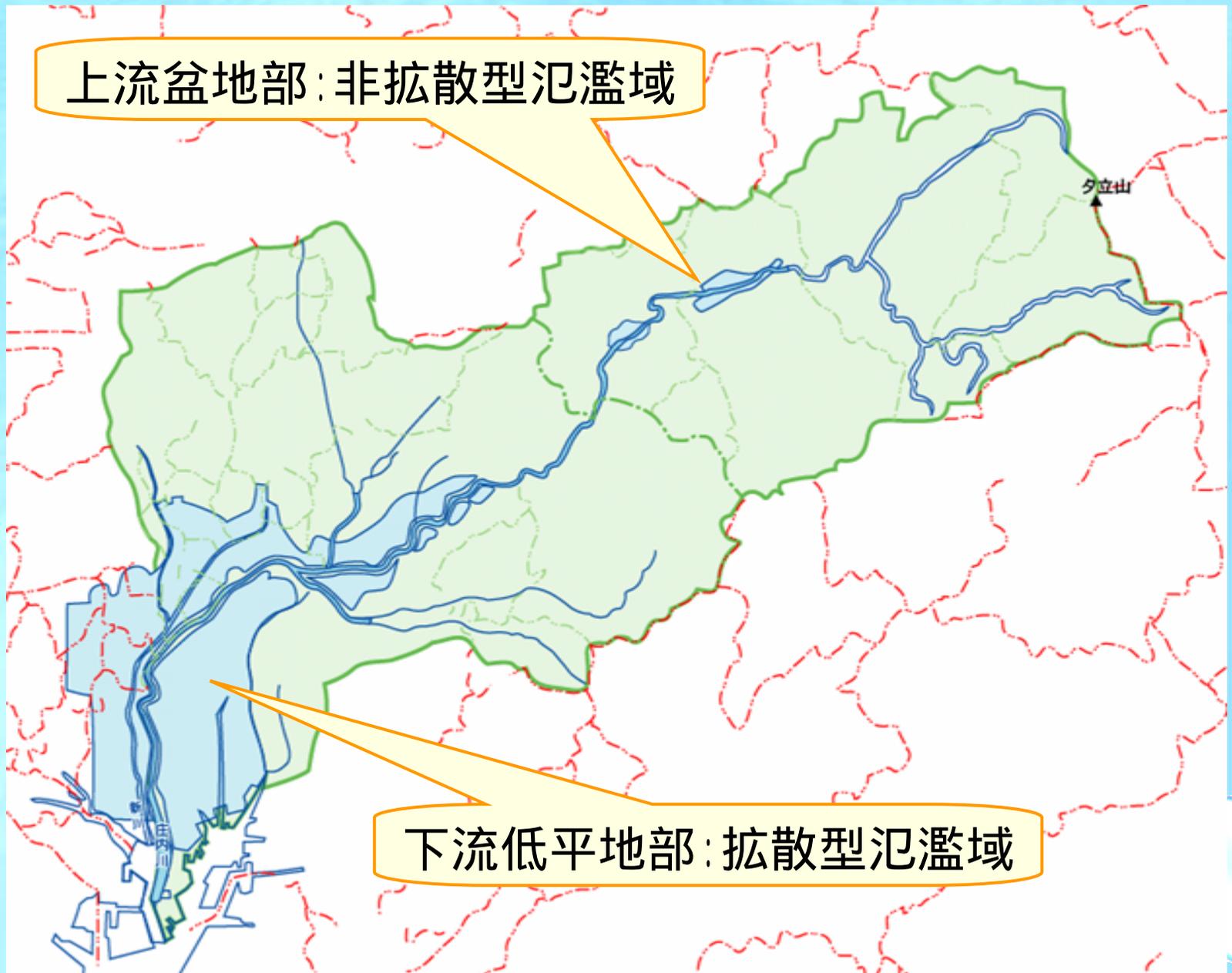
土岐川庄内川の地形的特徴



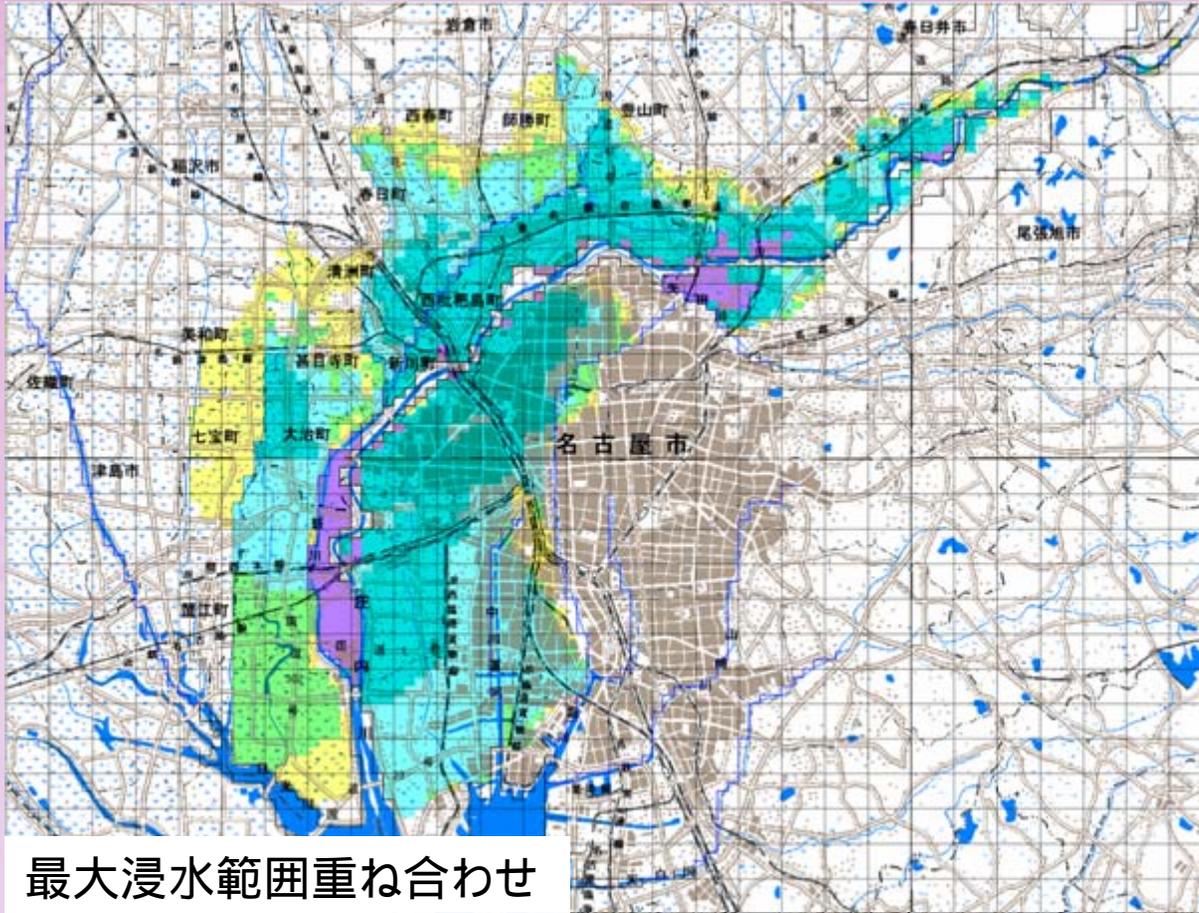
- ・上流は盆地地形と掘込み形態
- ・下流は低平地地形と天井川形態



氾濫域と氾濫形態について



破堤点毎の浸水範囲



● 破堤地点

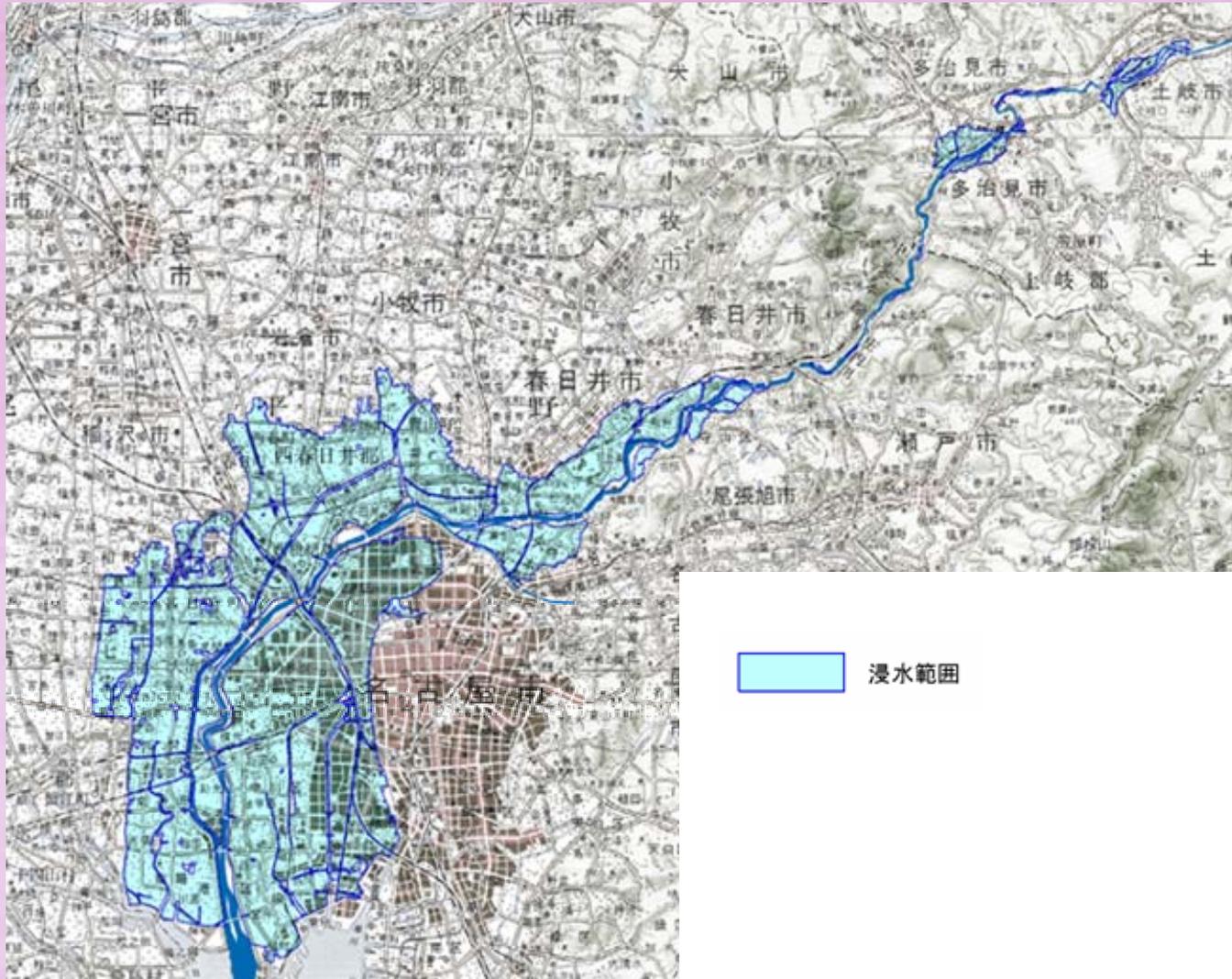
浸水深凡例

- 50cm未満
- 50cm以上1.0m未満
- 1.0m以上2.0m未満
- 2.0m以上5.0m未満
- 5.0m以上

中下流域では破堤箇所からの浸水範囲が拡散・流下して広がり、上流域のように盆地で一定の範囲に浸水が留まるものとはならない。



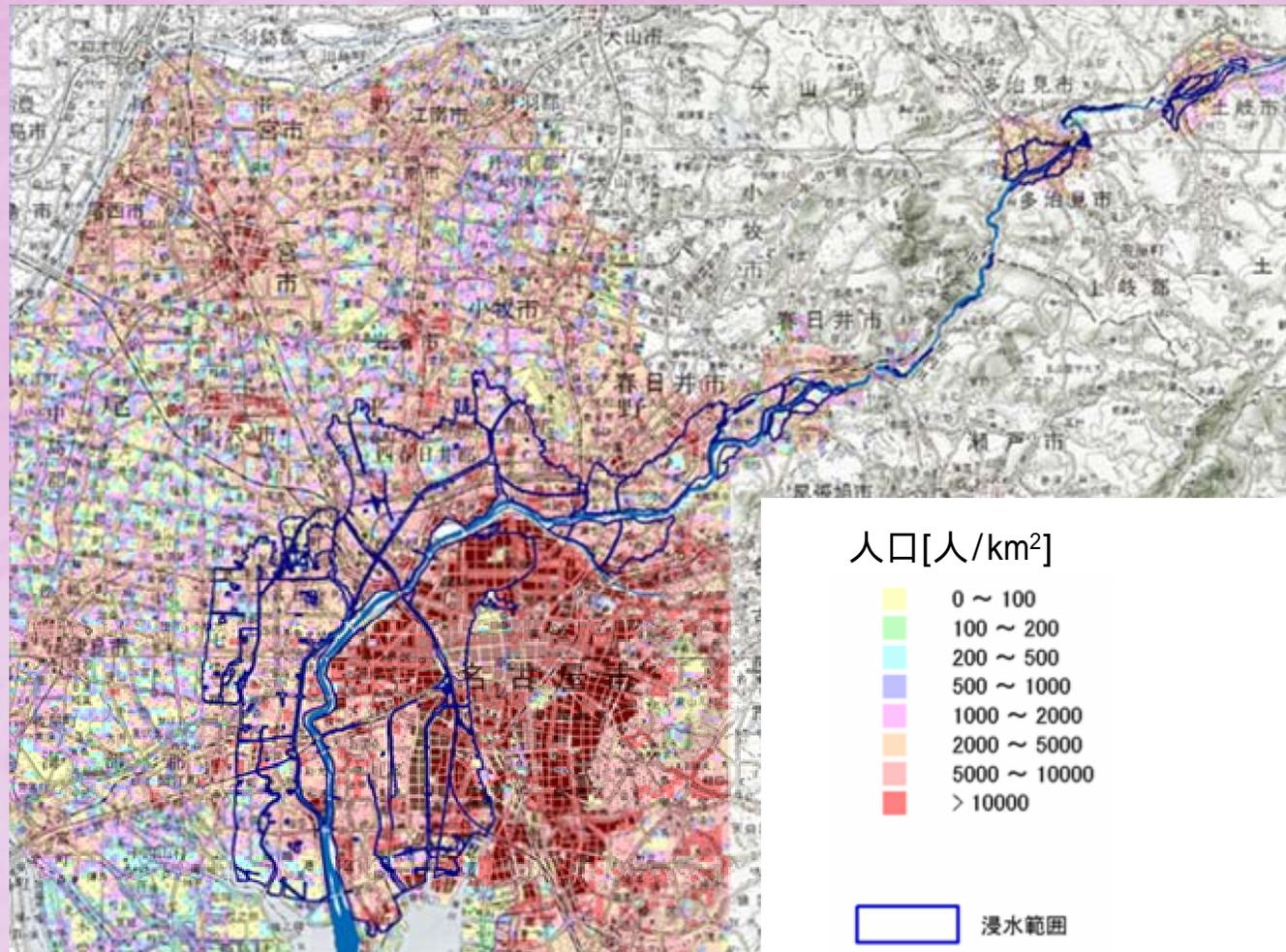
浸水範囲図



浸水想定区域図(平成13年7月公表および平成14年6月公表)をもとに作成した浸水範囲図



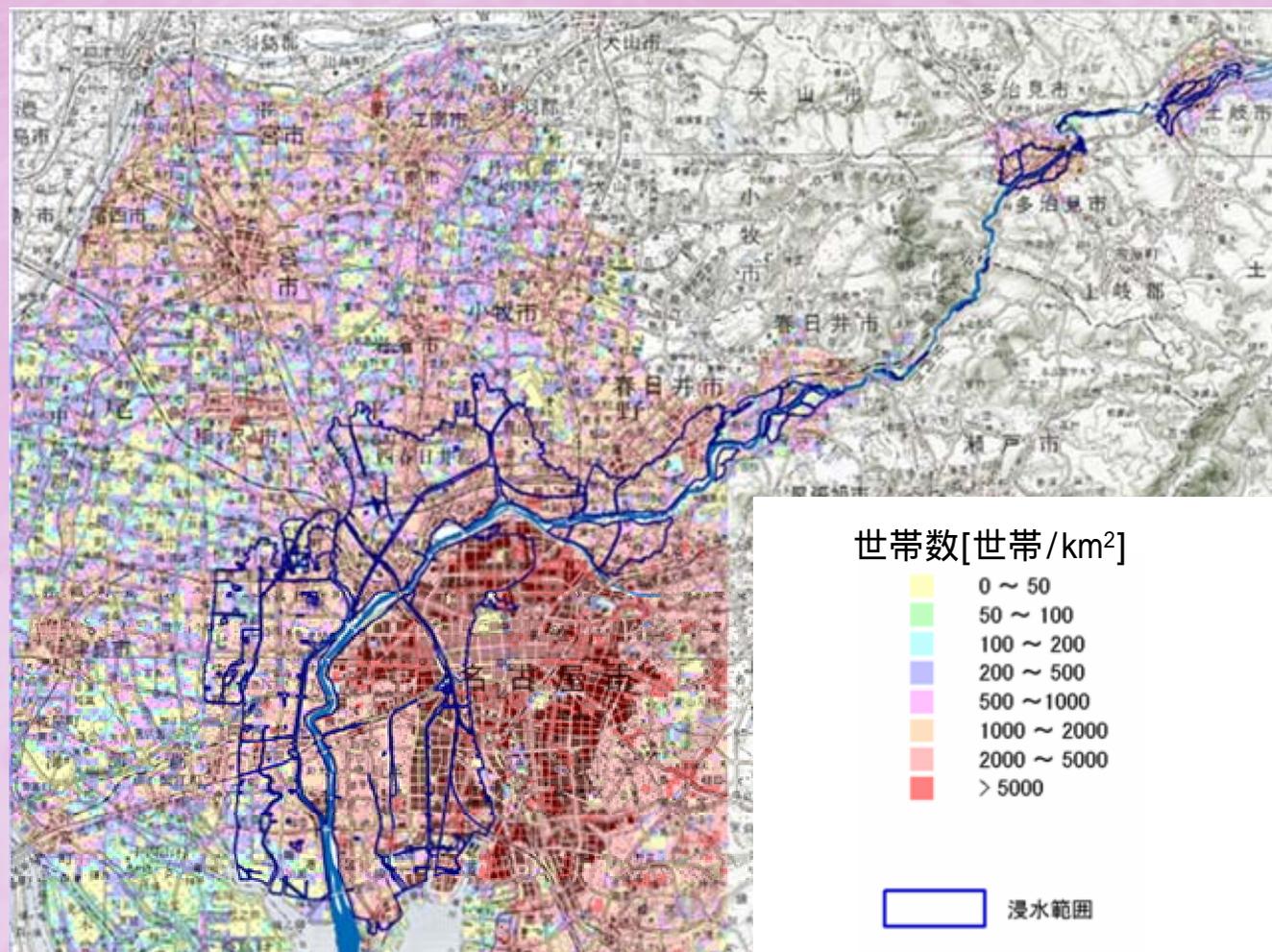
浸水範囲と人口密度分布



全国平均の人口密度は340人/km²、市部人口密度の全国平均は概ね1000人/km²であり、対して浸水範囲の半分以上を占める名古屋市域では全国平均の5倍以上の人口密度となっている(名古屋市の平成15年7月1日時点の人口密度は6,714人/km²)。



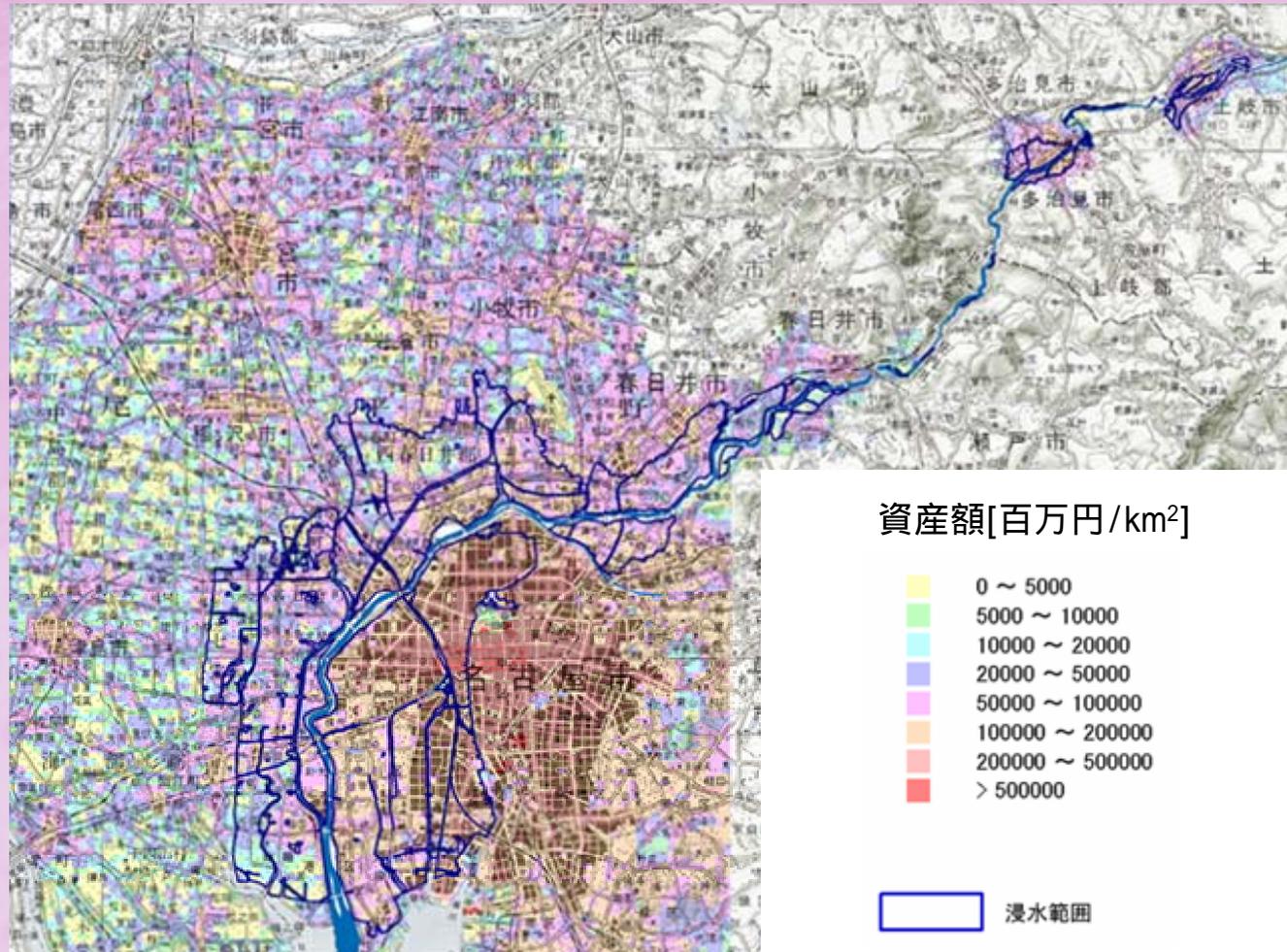
浸水範囲と世帯数密度分布



世帯数密度の全国平均は概ね120世帯/km² であり、対して浸水範囲の半分以上を占める名古屋市域では全国平均の20倍以上の世帯数密度となっている(名古屋市の平成15年7月1日時点の世帯数密度は 2,853世帯/km²)。



浸水範囲と資産額密度分布



庄内川沿いには資産が集中しており、特に庄内川下流域左岸の名古屋市の中心部に資産が集中している。



庄内川沿川の航空写真



庄内川5K付近
[平成15年3月10日撮影]



土岐川48K付近
[平成15年3月12日撮影]



庄内川14K付近
[平成15年3月10日撮影]



土岐川57K付近
[平成15年3月12日撮影]

浸水区域となる庄内川沿川の航空写真。
どの地点も市街地が広がり、河川際まで建物等が密集している。



治水計画の概要

治水計画の変遷

年度	計画	背景
S16	庄内川改修計画策定(当初計画)	軍事施設の防災
S44	工事实施基本計画策定	一級河川指定、直轄編入
S50	工事实施基本計画改定	近年の出水・流域開発状況等
H6	工事实施基本計画部分改定	ダム名等の記載

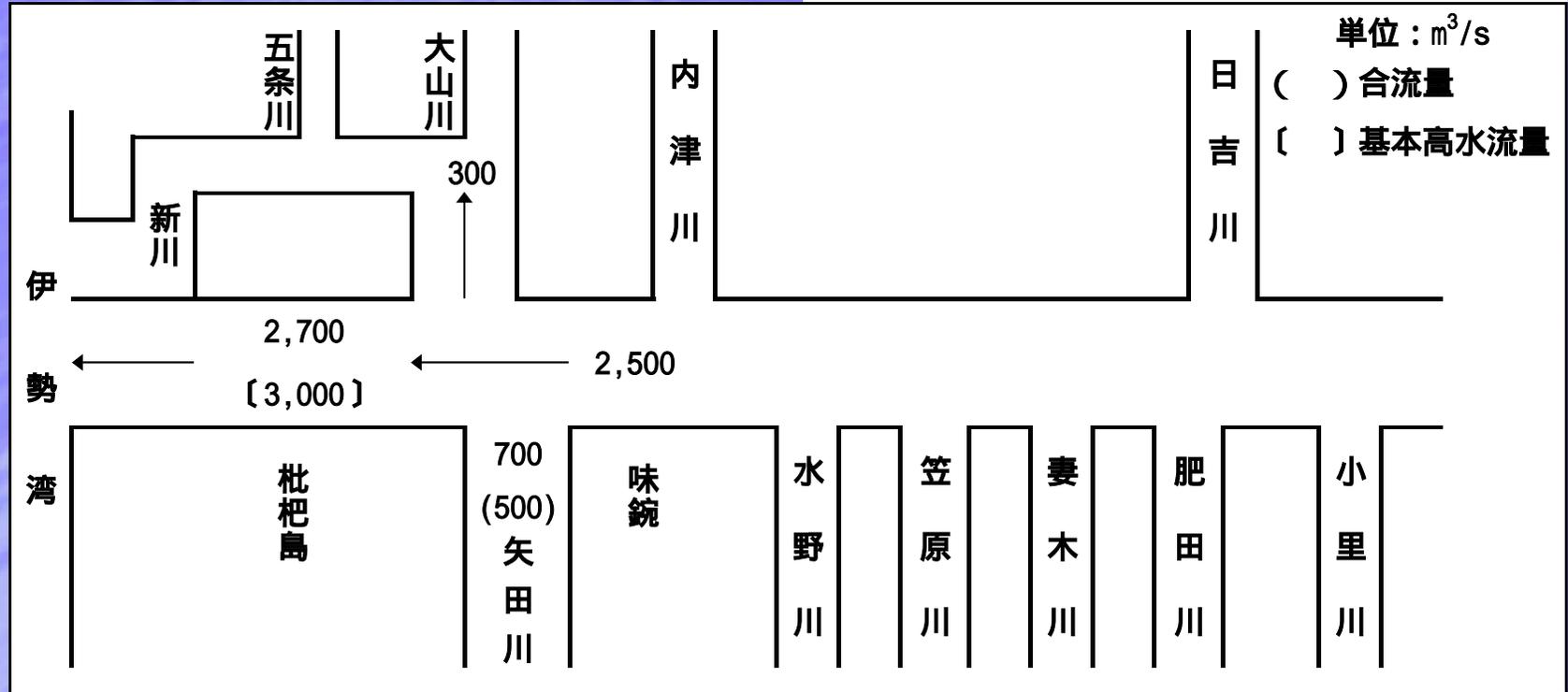
年月日	概要	区間(位置)
S44.4.1	直轄管理区域の編入	河口～庄内川橋(17.5km)
S48.4.12	直轄管理区域に延伸	庄内川橋～東谷橋(34.8km)
	直轄管理区域に一部編入	矢田川 宮前橋(7.0km)
S49.4.11	直轄管理区域に延伸	東谷橋～虎溪大橋(50.4km)
S51.5.10	直轄管理区域に延伸	虎溪大橋～三共橋(59.6km)
S58.4.8	直轄管理区域に一部編入	八田川 御殿橋(4.8km)



治水計画の概要

・当初計画(昭和16年)

明治29年9月洪水実績(枇杷島)



枇杷島地点 基本高水 3000m³/s
計画高水 2700m³/s

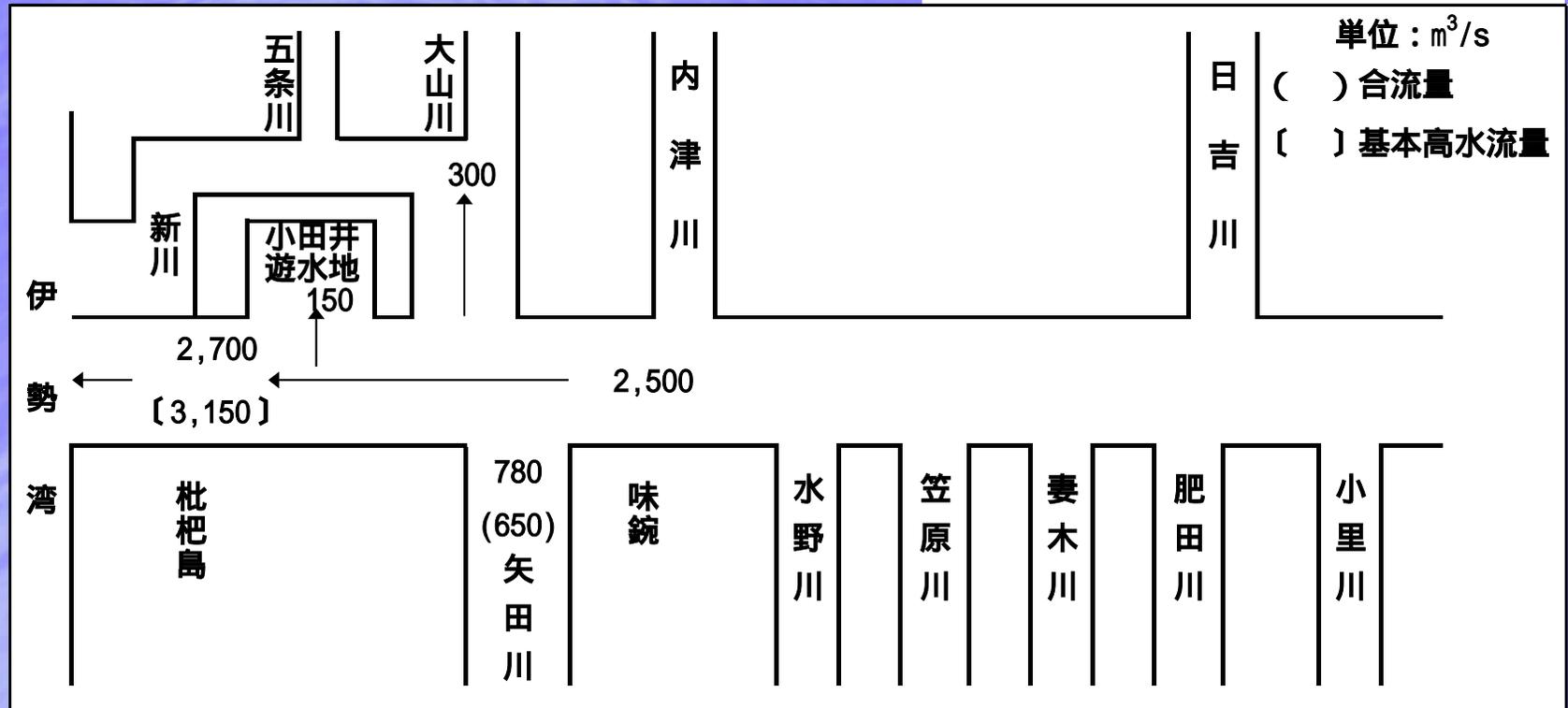
工事实施基本計画参考資料をもとに作成



治水計画の概要

工事実施基本計画(昭和44年)

1/50相当(枇杷島)



枇杷島地点 基本高水 $3150m^3/s$
計画高水 $2700m^3/s$

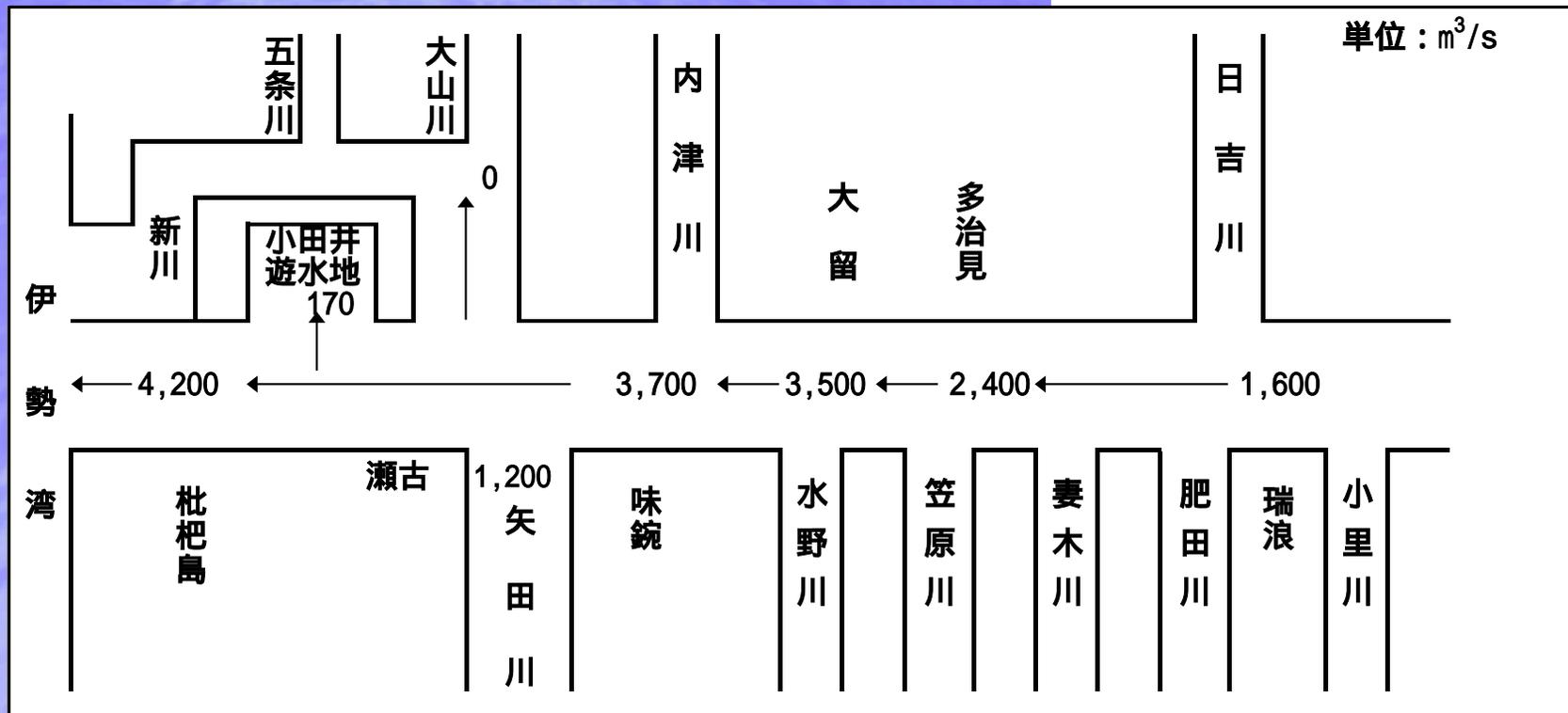
工事実施基本計画参考資料をもとに作成



治水計画の概要

・工事実施基本計画改定(昭和50年)

1/200(枇杷島)



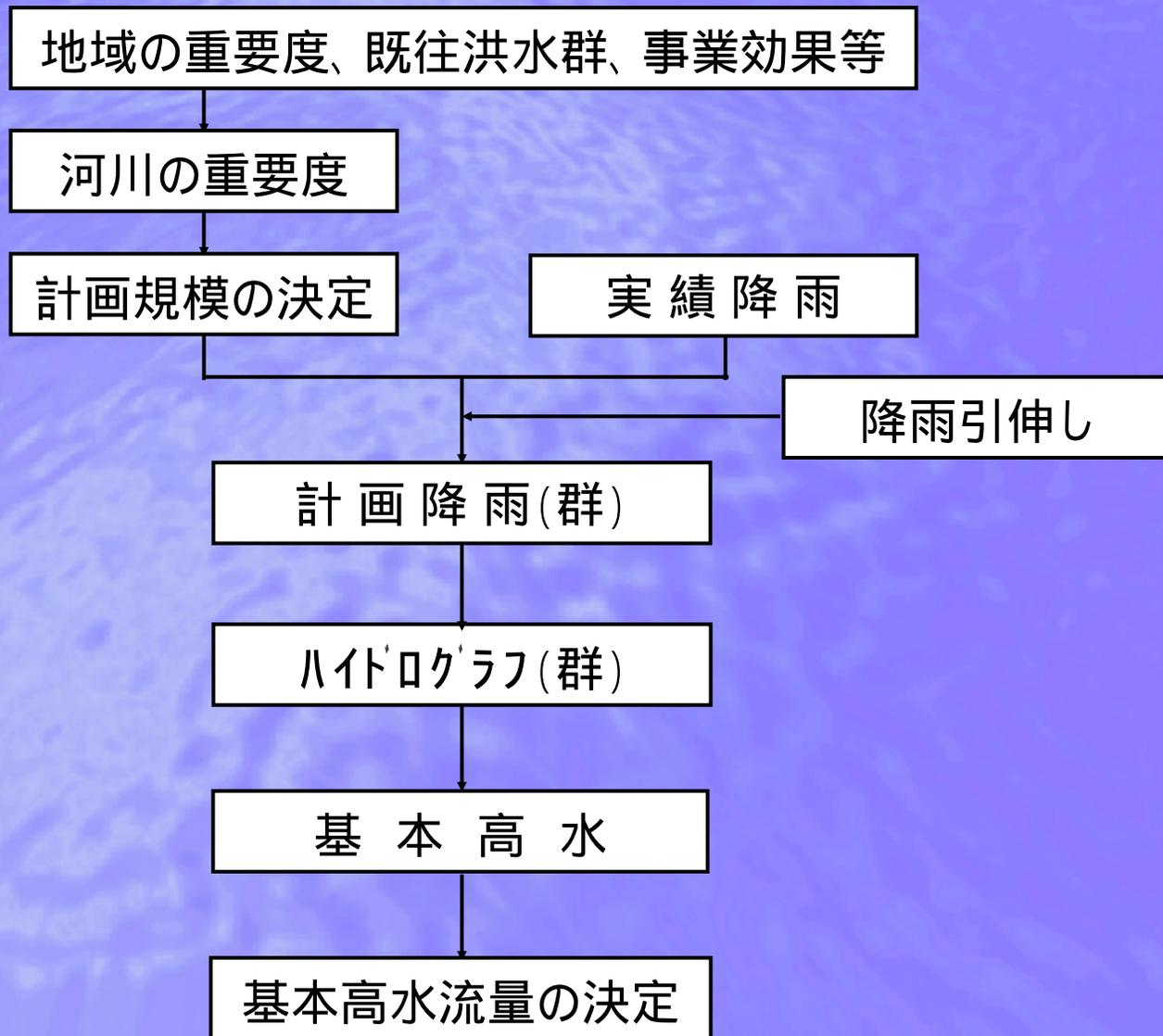
基本高水	枇杷島地点	4500 m^3/s
	多治見地点	2700 m^3/s
計画高水	枇杷島地点	4200 m^3/s
	多治見地点	2400 m^3/s



工事実施基本計画をもとに作成

工事实施基本計画(現計画)

基本高水流量の決定方法



工事实施基本計画(現計画)

・計画規模の基準

計画規模は、河川の大きさ、その他対象となる地域の社会的・経済的重要性、想定される被害の質・量、過去の災害の履歴などの要素を考慮して定める。

重要度	適用	計画の規模
A 級	1級河川の主要区間	200以上
B 級	〃	100～200
C 級	1級河川の主要区間 2級都市河川	50～100
D 級	2級河川	10～50
E 級	〃	10以下

出典：河川砂防技術基準(案)計画編



工事实施基本計画(現計画)

・計画規模の基準



基準地点

水系基準地点は、下流域については枇杷島地点、上流域については多治見地点としている。

計画規模

基準地点(多治見、枇杷島)上流域の降雨の計画規模は次のとおりである。

多治見上流 1/100

枇杷島上流 1/200

計画規模は、降雨量の年超過確率で表す。

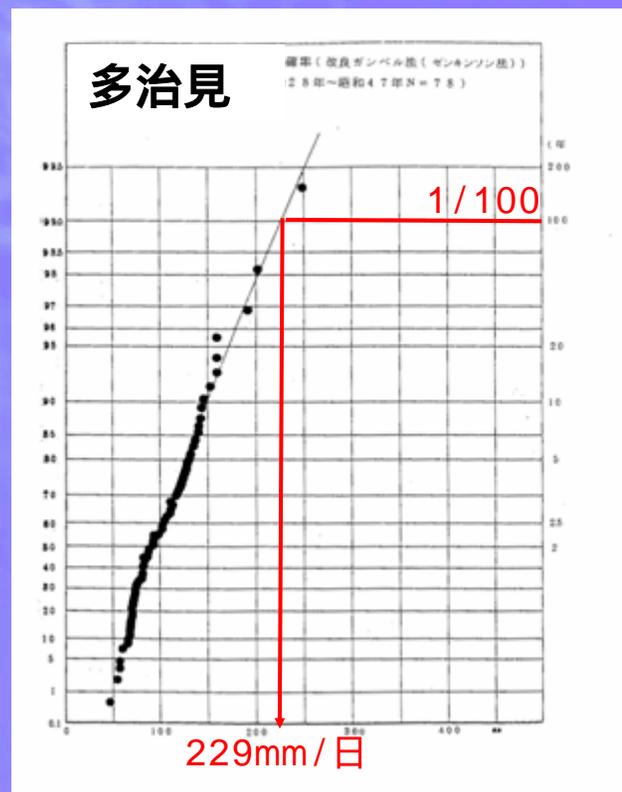
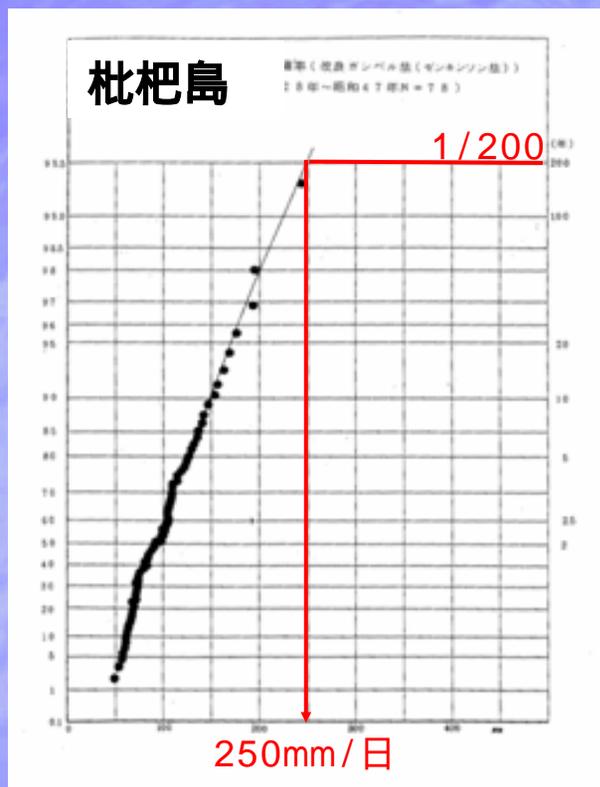


工事実施基本計画(現計画)

・計画規模の外力(降雨)の決定

基準地点上流域の総雨量を決める

明治28年～昭和47年(統計期間78ヶ年)の年最大流域平均日雨量を用いた確率解析で、計画規模の日雨量を決定



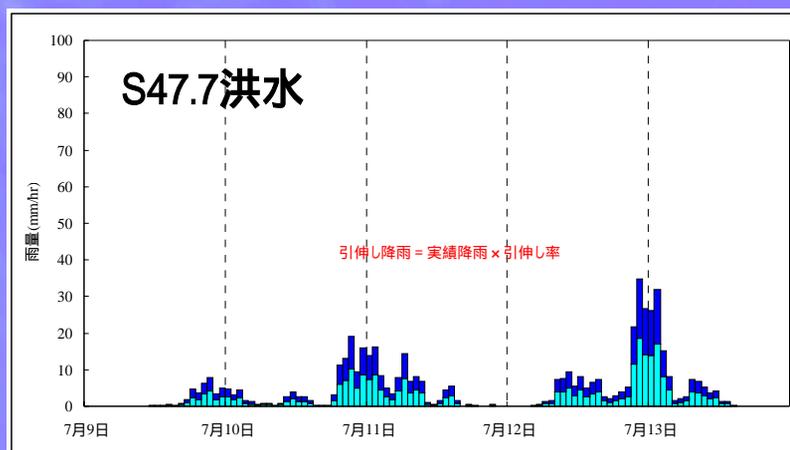
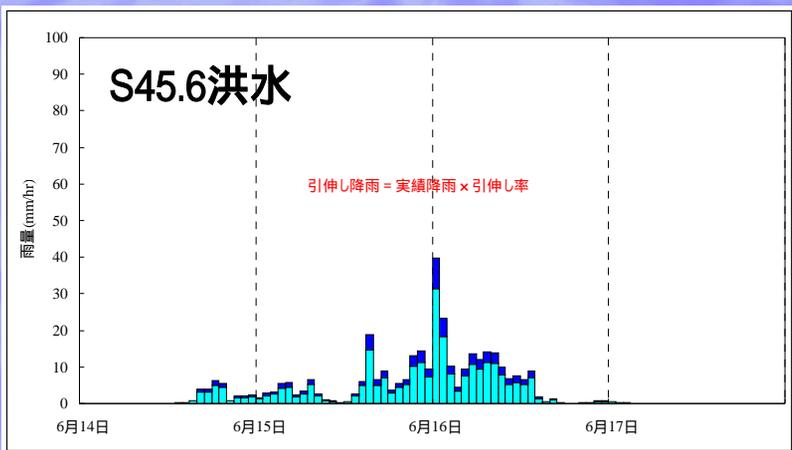
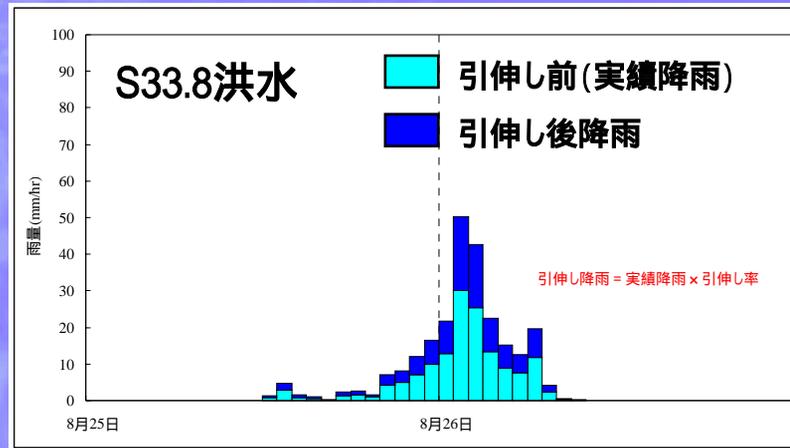
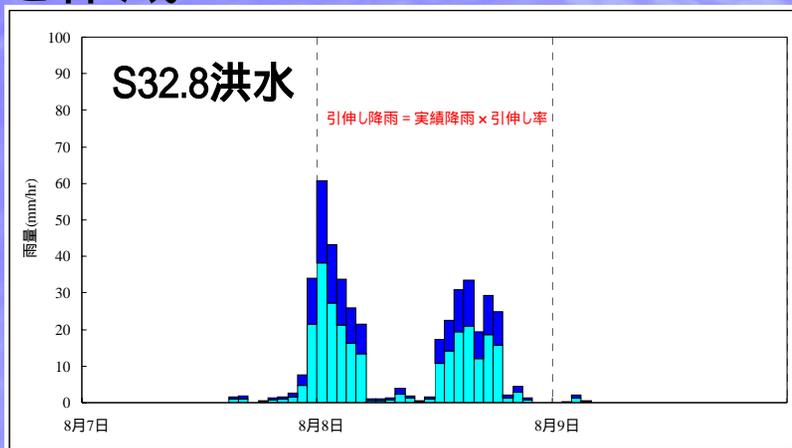
出典:工事実施基本計画参考資料



工事実施基本計画(現計画)

・計画規模の外力(降雨)の決定 (引き伸ばし方)

代表的な洪水の雨を計画規模の雨まで引き伸ばして計画降雨を作成

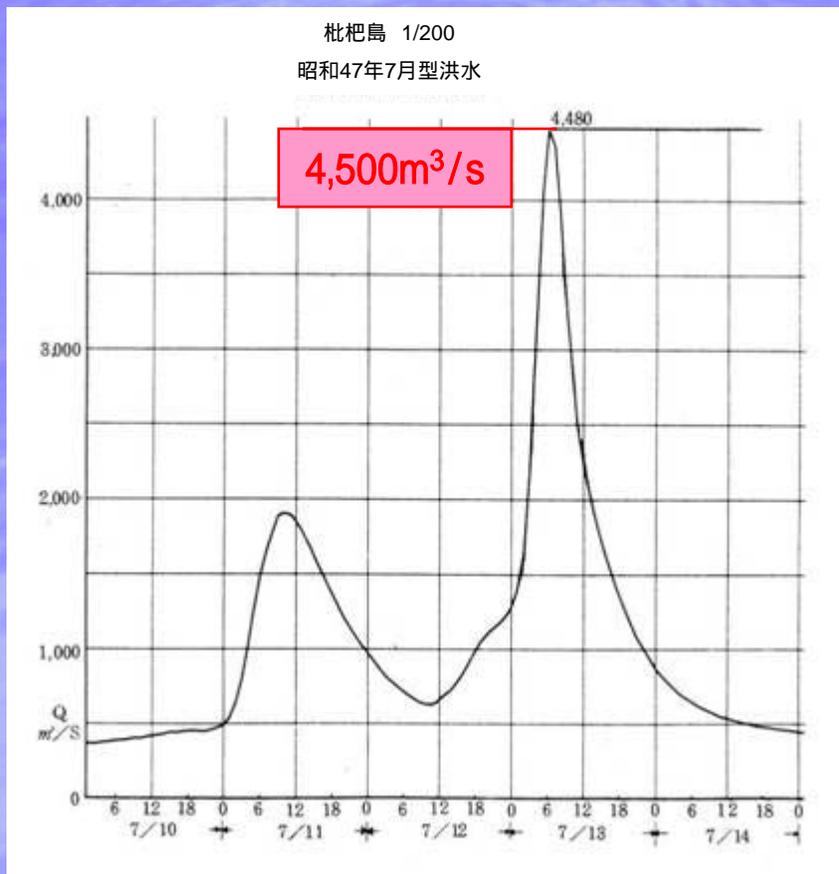


$$\text{引伸し率} = \text{計画降雨量} \div \text{実績雨量}$$

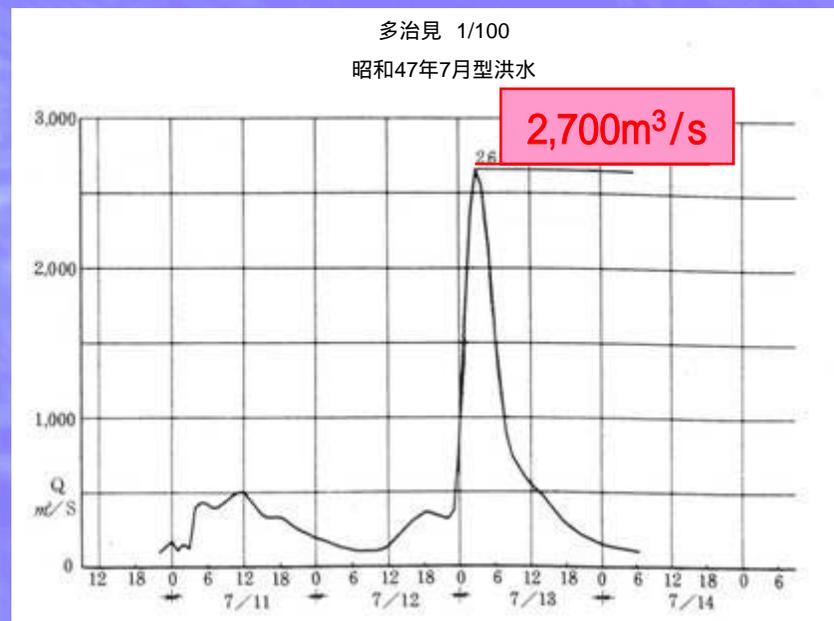


工事実施基本計画(現計画)

基本高水の検討



枇杷島地点基本高水



多治見地点基本高水



工事实施基本計画(現計画)

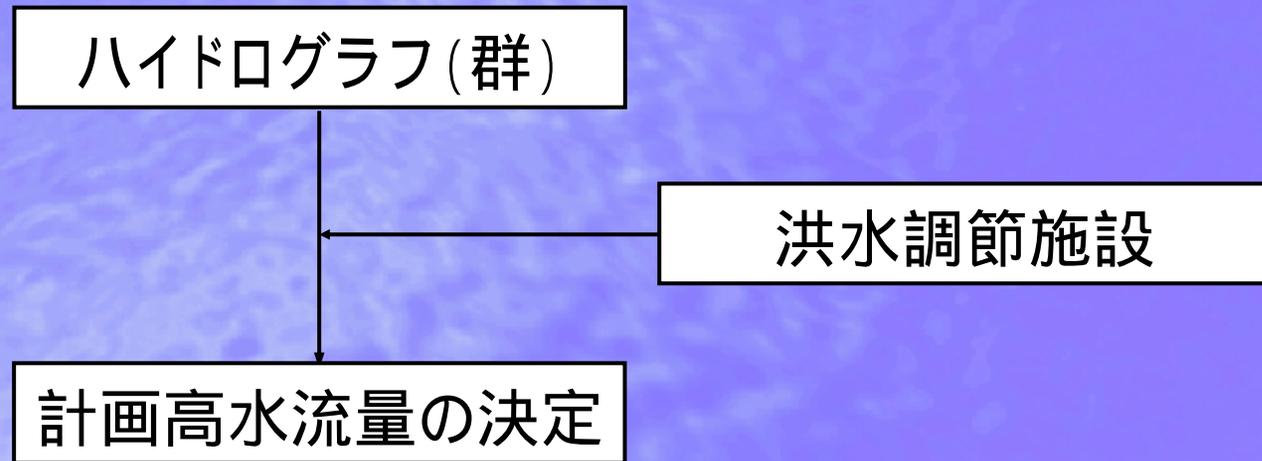
・計画降雨量と基本高水のピーク流量

地点	超過確率	計画降雨量	基本高水
多治見	1 / 100	229mm / 日	2700m ³ / s
枇杷島	1 / 200	250mm / 日	4500m ³ / s



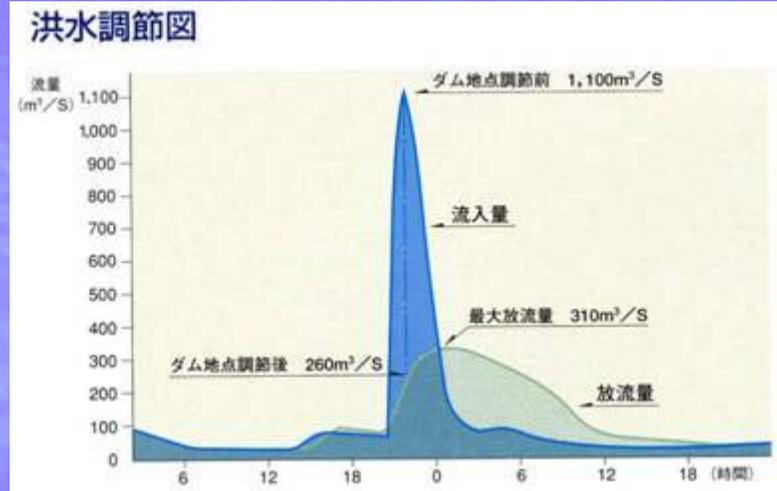
工事実施基本計画(現計画)

・計画高水流量の決定方法



工事実施基本計画(現計画)

・洪水調節施設(小里川ダム)



小里川ダム着手前の風景

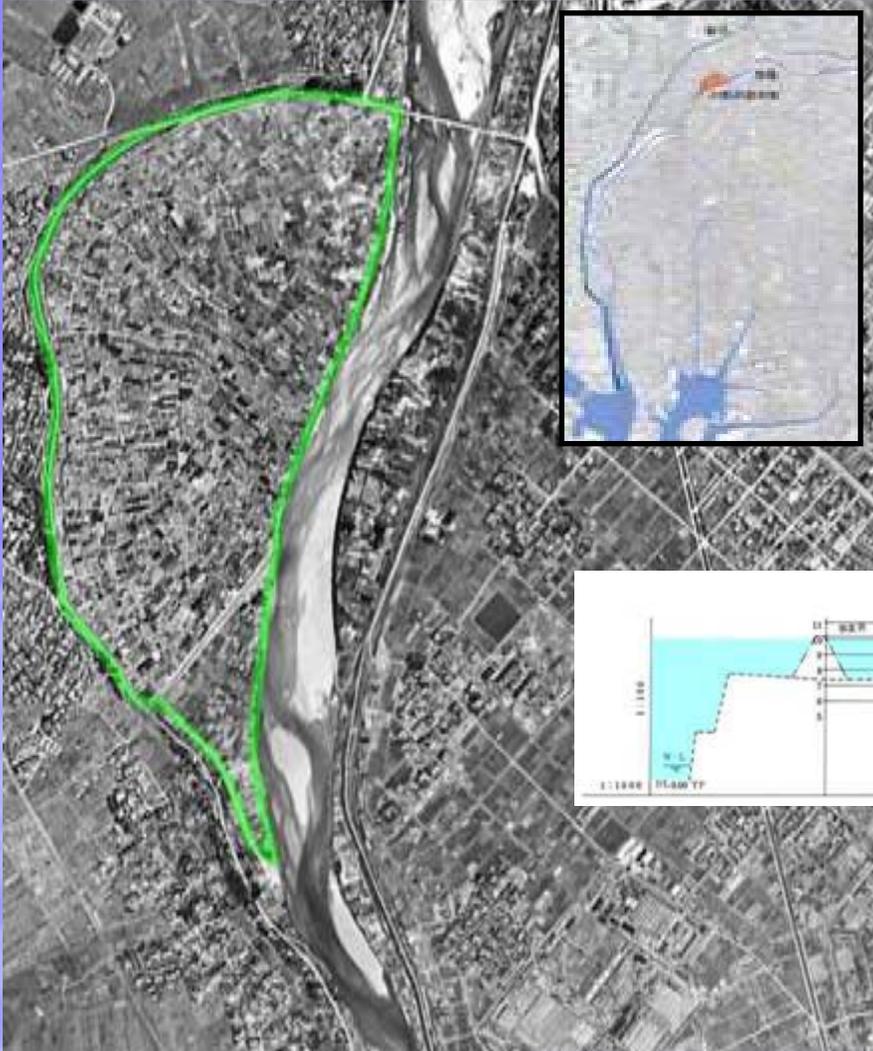


小里川ダムは、ダム地点の計画高水流量 1,100m³/sを260m³/sに洪水を調節し、東濃地域・尾張地域の水害を軽減します。



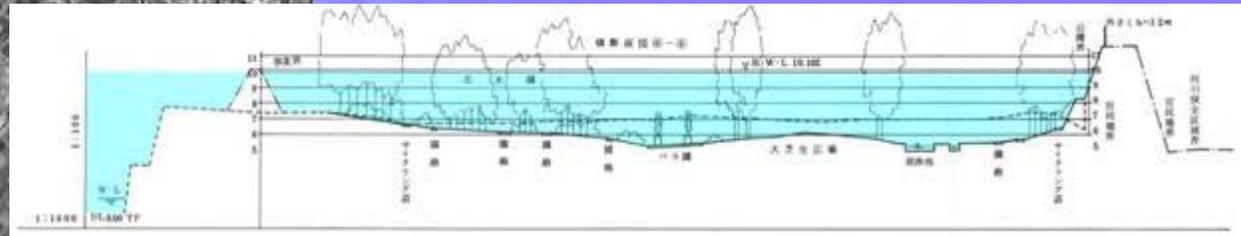
工事実施基本計画(現計画)

・洪水調節施設(小田井遊水地)



庄内川右岸15.8km～17.7kmの旧河道を利用する小田井遊水地は、江戸時代(1610年ごろ)既にほぼ現在の姿になっており、庄内川の洪水を遊水させていたと考えられている。

基本計画として $170\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節を行うものとされており、公園事業と関連した緑地公園の整備が行われている。



遊水地の横断とHWLの関係

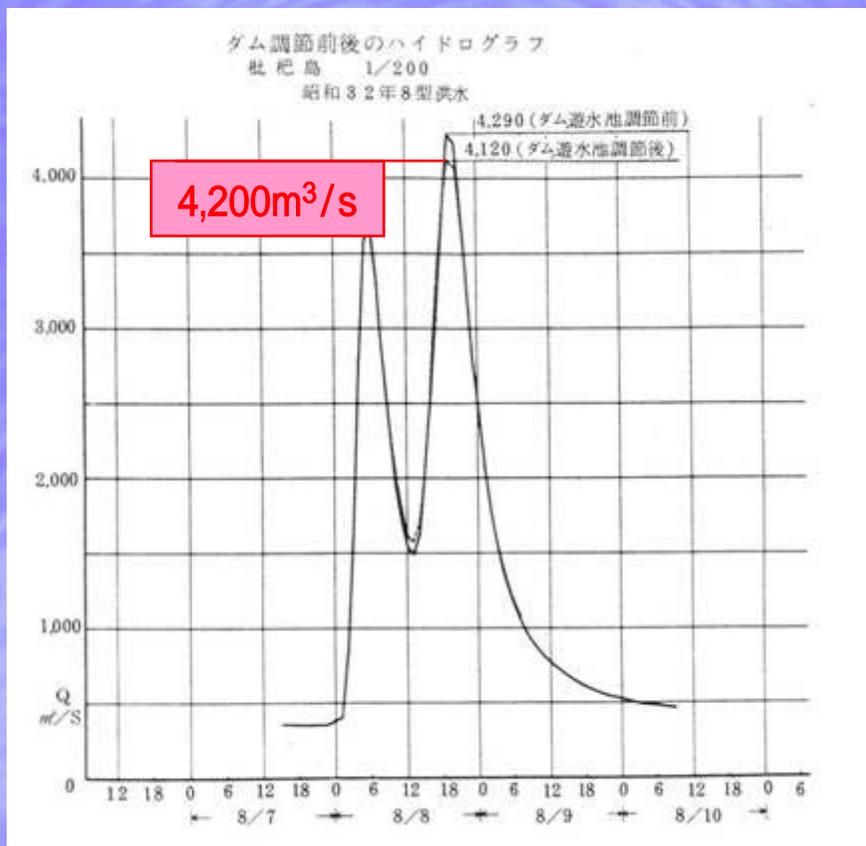
小田井遊水地付近の状況(昭和21年)



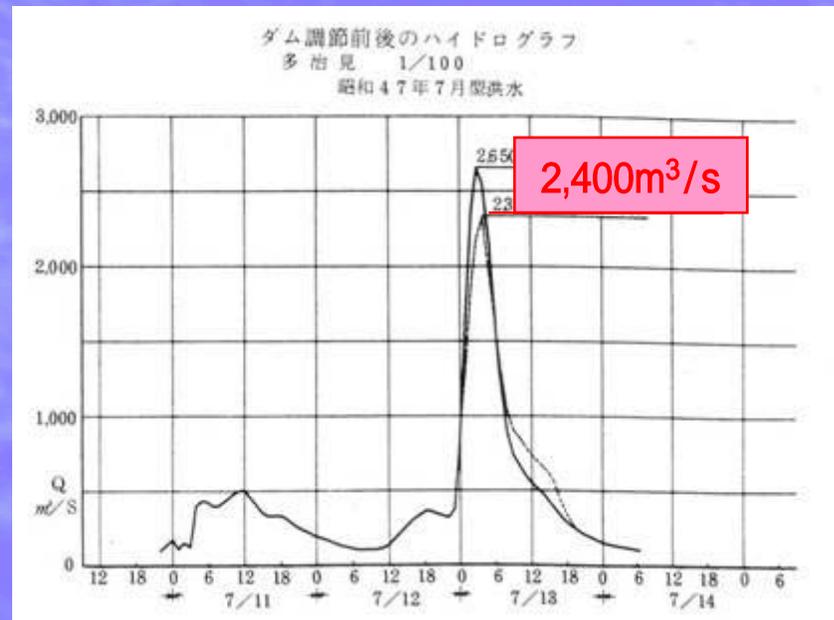
工事実施基本計画(現計画)

計画高水流量の検討

計画高水流量



枇杷島地点計画高水流量

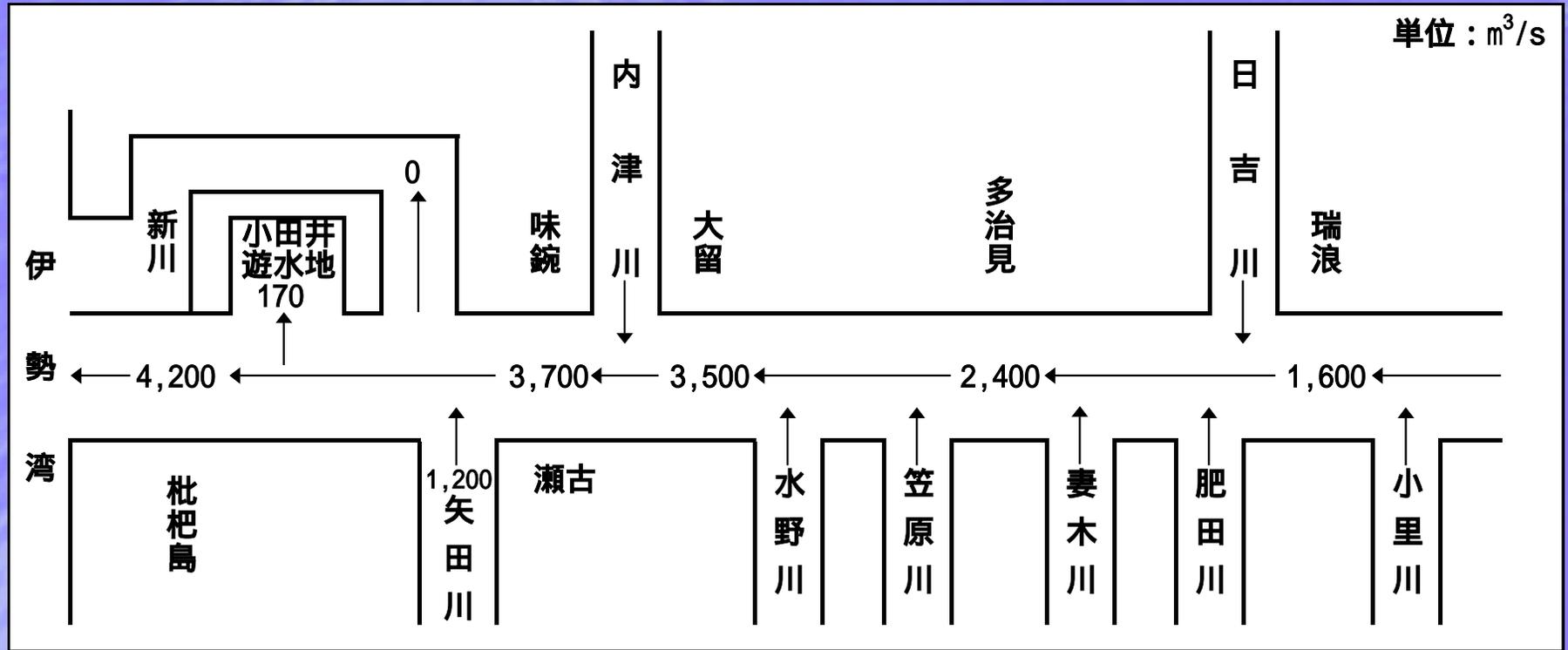


多治見地点計画高水流量



工事实施基本計画(現計画)

計画高水流量



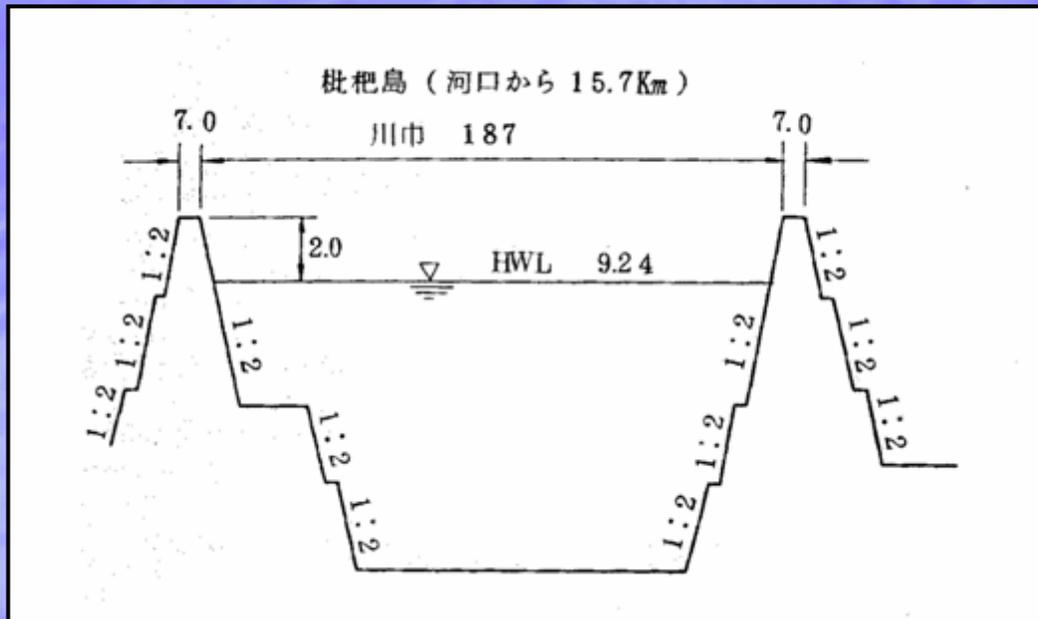
小里川ダム及び小田井遊水地による洪水調節により、計画高水流量は多治見地点で $2,400 m^3/s$ 、枇杷島地点で $4,200 m^3/s$ と決定している。



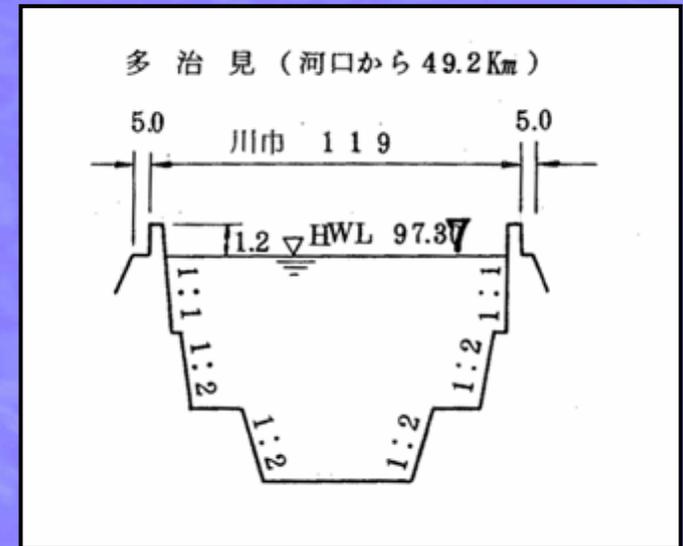
工事实施基本計画(現計画)

・計画横断面図

枇杷島地点



多治見地点



計画高水流量をHWL以下で流下させる河道横断を策定している。

出典:工事实施基本計画



主要事業の概要

直轄編入前

- ・矢田川の付替え(S7完成)
- ・枇杷島地区中島の撤去(S33完成)

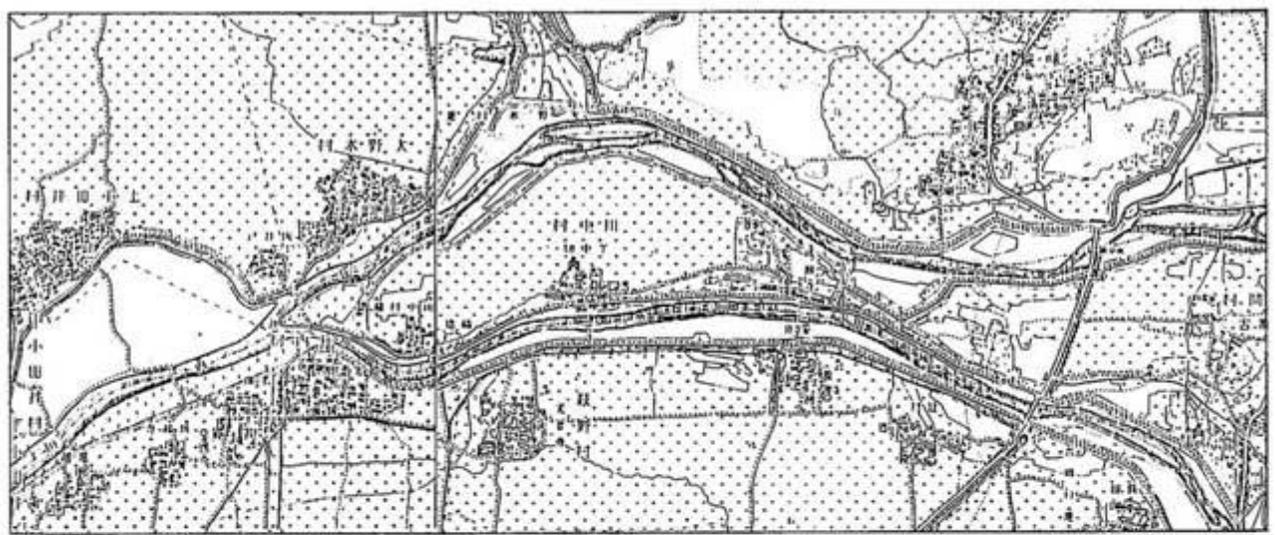
直轄編入後

- ・一般改修事業
 - 大蠍螂右岸引堤(S56概成)、明德橋左岸引堤(S58完成)
 - 中流部の改修(志段味等)、堤防耐震対策
- ・小田井遊水地(H1概成)
- ・小里川ダム建設事業(H15完成予定)
- ・土岐川河川災害復旧等関連緊急事業(復緊急事業)(H15完成予定)
- ・庄内川河川激甚災害対策特別緊急事業
(激特事業)(H16完成予定)
- ・特定構造物改築事業(特構事業)
 - 一色大橋(H21完成予定)、枇杷島地区(H26完成予定)



主要事業の概要

・矢田川の付替え



㊤事業着手前の河道



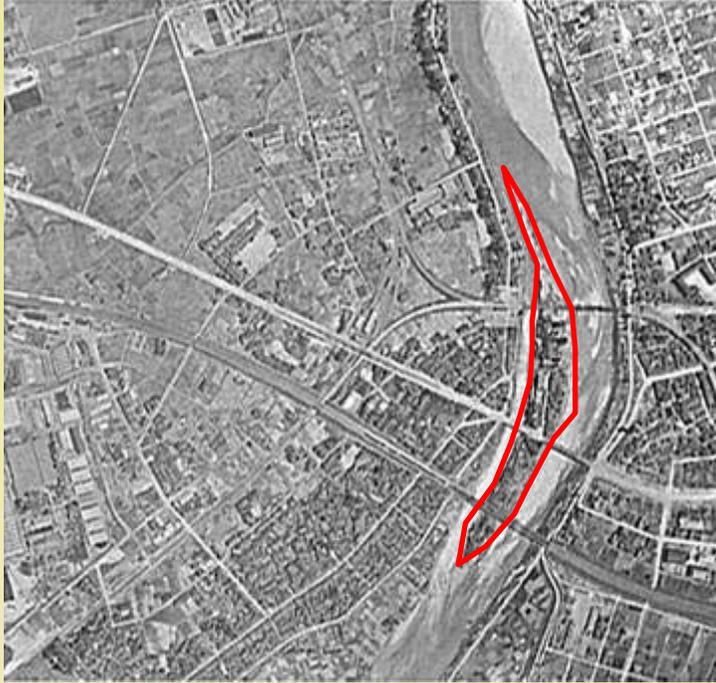
矢田川の新旧河道

㊦現在の河道



主要事業の概要

・枇杷島地区中島の撤去



昭和22年



平成15年



主要事業の概要

・明德橋左岸引堤



昭和55年



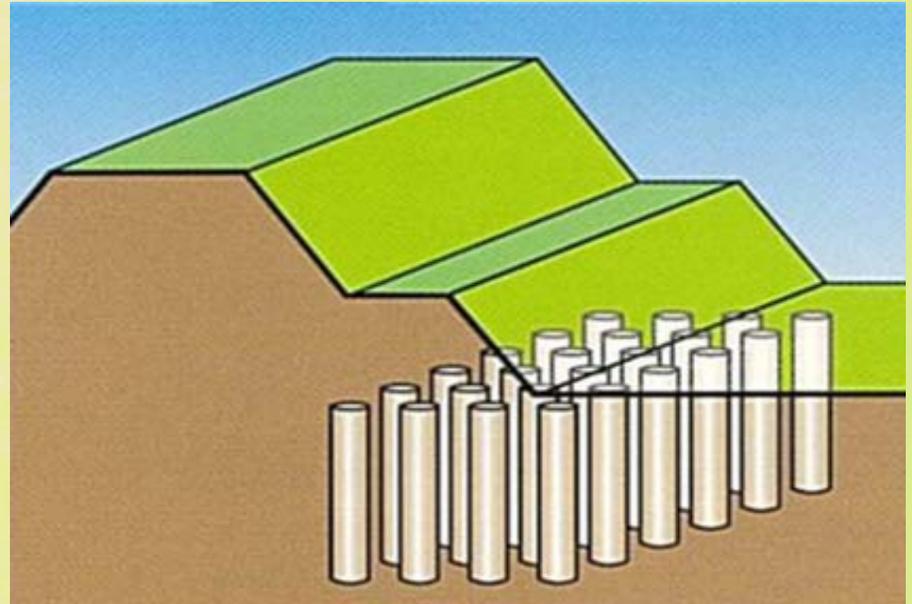
平成15年



主要事業の概要

・堤防耐震対策

阪神淡路大震災では地盤の「液状化」によって、河川堤防の沈下・崩壊が発生した。庄内川・矢田川の堤防でも「液状化」による被害が発生する可能性があり、特に庄内川河口部の堤内地は「ゼロメートル地帯」であるため、浸水が懸念される。



当面は、河口部について地盤改良工を施工し、「液状化」防止等によって崩れにくい堤防をつくる。



主要事業の概要

・小田井遊水地



撮影 平成14年2月



主要事業の概要

・小里川ダム



撮影 平成15年



事業の進捗状況

・激特事業

平成12年9月の東海豪雨水害を受けて、緊急的な改修によって治水安全度を向上させるため、激特事業が進められている。



一色大橋～大当郎橋 事業前状況



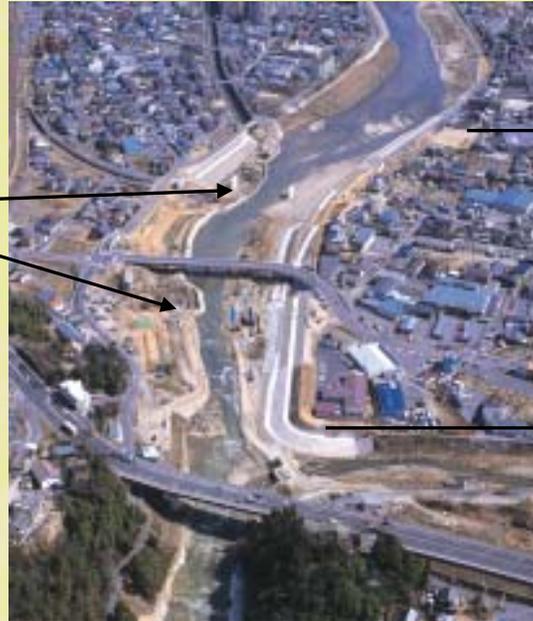
一色大橋～大当郎橋 事業進捗状況



事業の進捗状況

・復緊事業

橋梁架替中



引堤

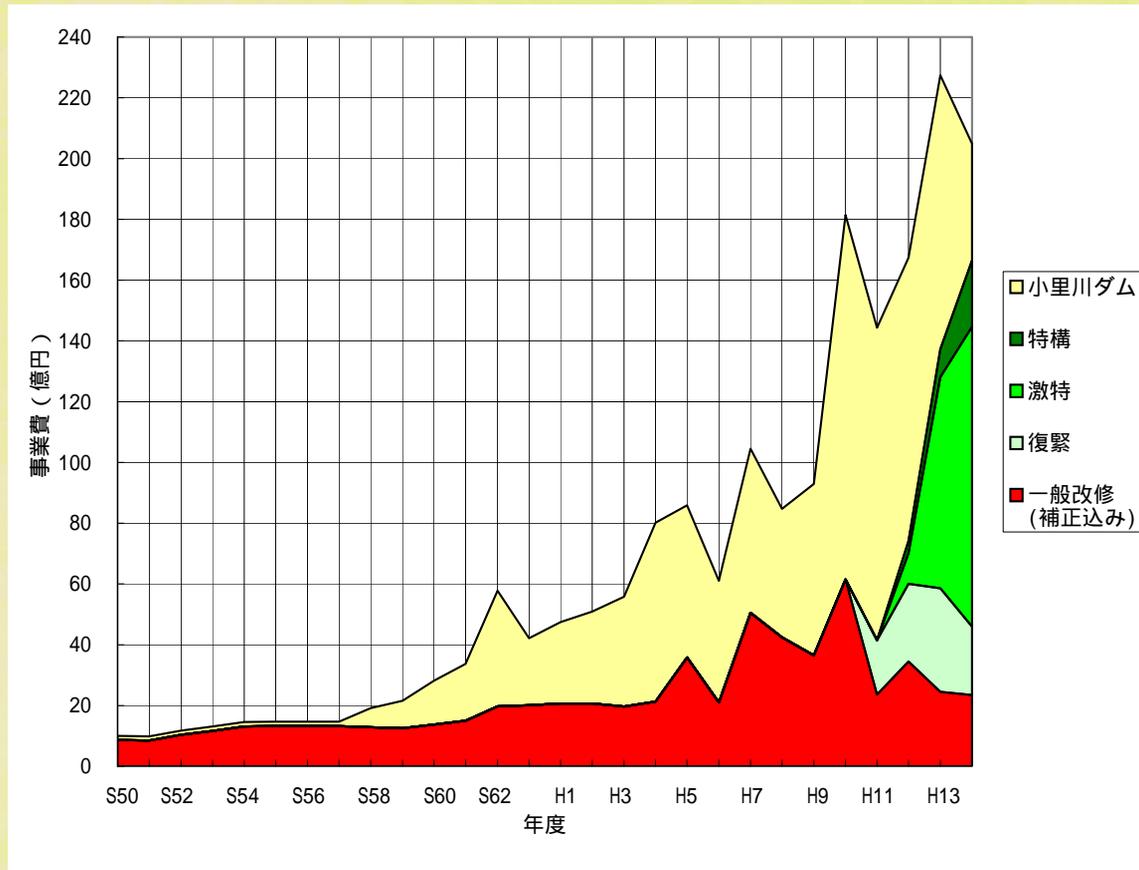
河道掘削

土岐地区の施工状況

平成11年6月豪雨による被害を受けて開始された多治見地区と土岐地区の復緊事業は、平成15年度完成予定である。多治見地区の事業は、河道掘削、護岸整備が主要な工事であり、土岐地区では、河道掘削、護岸整備に加え、狭窄部の引堤や堰・床止め撤去が実施されている。



事業費の推移



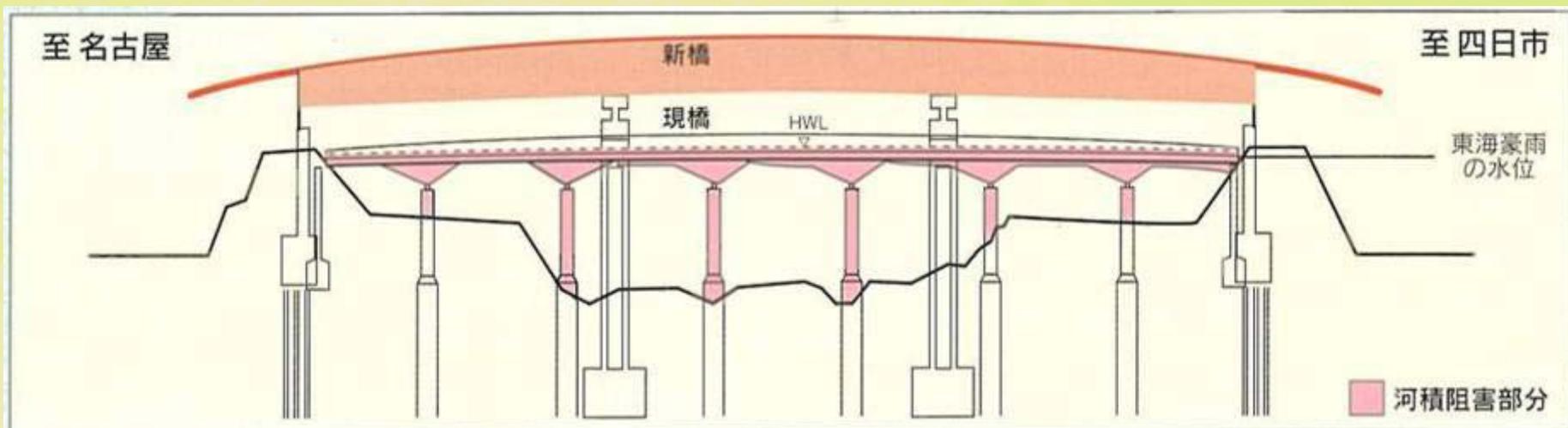
庄内川の一般改修事業は、20～30億円程度であり、小里川ダムや復緊、激特といった個別事業が治水事業の大半を占めている。



関連事業の進捗状況

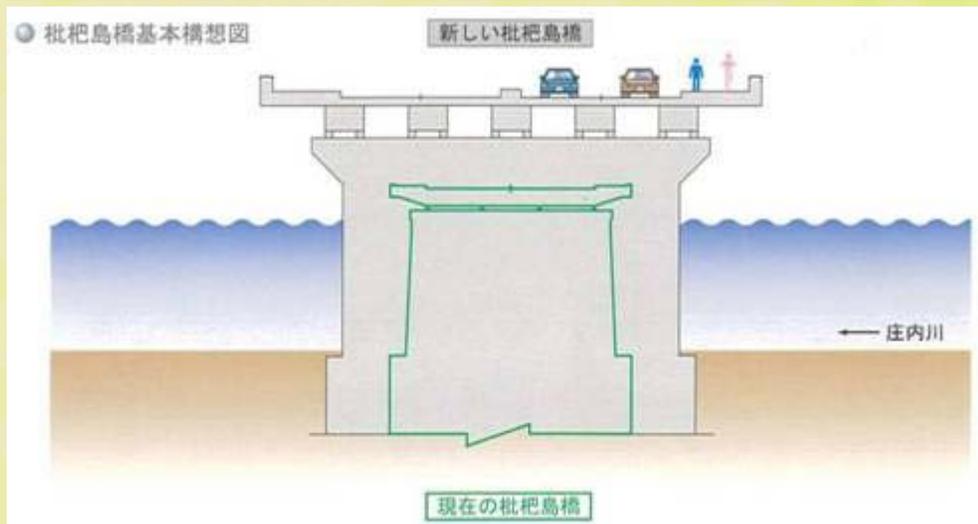
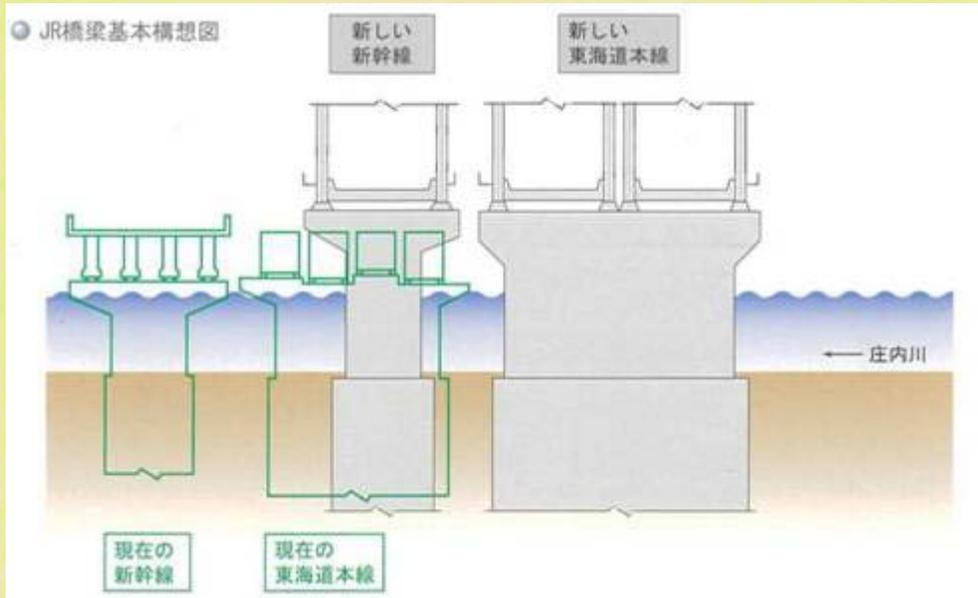
・特定構造物改築事業(一色大橋)

洪水の安全な流下を著しく阻害している国道1号一色大橋の改築を行うものである。平成12年度から事業を進めており、現在仮橋の架設中であり、平成16年度中に現橋を撤去し、平成21年度の完成を目指している。



関連事業の進捗状況

・特定構造物改築事業(枇杷島地区)



洪水の安全な流下を著しく阻害している枇杷島地区の橋梁改築（JR東海道新幹線庄内川橋梁、JR東海道本線枇杷島橋梁、県道名古屋祖父江線枇杷島橋）を行うものであり、平成14年度に特定構造物改築事業が採択され、事業着手したところである。



その他事業

・木曽川導水事業の目的

木曽川導水事業は、木曽川、新川、庄内川を結ぶ新しい河川を建設することにより、この地域の水害を軽減し、汚濁の進んだ河川の水環境を改善するとともに、都市部における新たな水需要への対応を図る多目的な事業です。

新川(大山川・西行堂川)の洪水被害の軽減(庄内川へ)

八田川の改修

ルート沿川の内水排除

新川諸支川への維持用水の補給

堀川への維持用水補給

名古屋市環境防災用水新規開発



その他事業

・木曽川導水事業の経緯

年月	経緯
昭和47年4月	実施計画調査に着手
昭和50年4月	庄内川水系工事実施基本計画改定：流況調整河川の建設が位置づけられる
昭和57年2月	新川流域整備計画に木曽川導水が位置づけられる
昭和58年4月	木曽川導水建設事業に着手
平成11年9月	庄内川から堀川へ試験通水実施
平成12年8月	公共事業の抜本見直しに関する三党合意発表
平成12年9月	中部地方建設局事業評価監視委員会において木曽川導水事業の中止を了承
平成12年11月	木曽川導水事業の事業中止を決定

木曽川導水事業は、昭和47年度に実施計画調査が着手され、昭和58年度に建設事業が着手された。

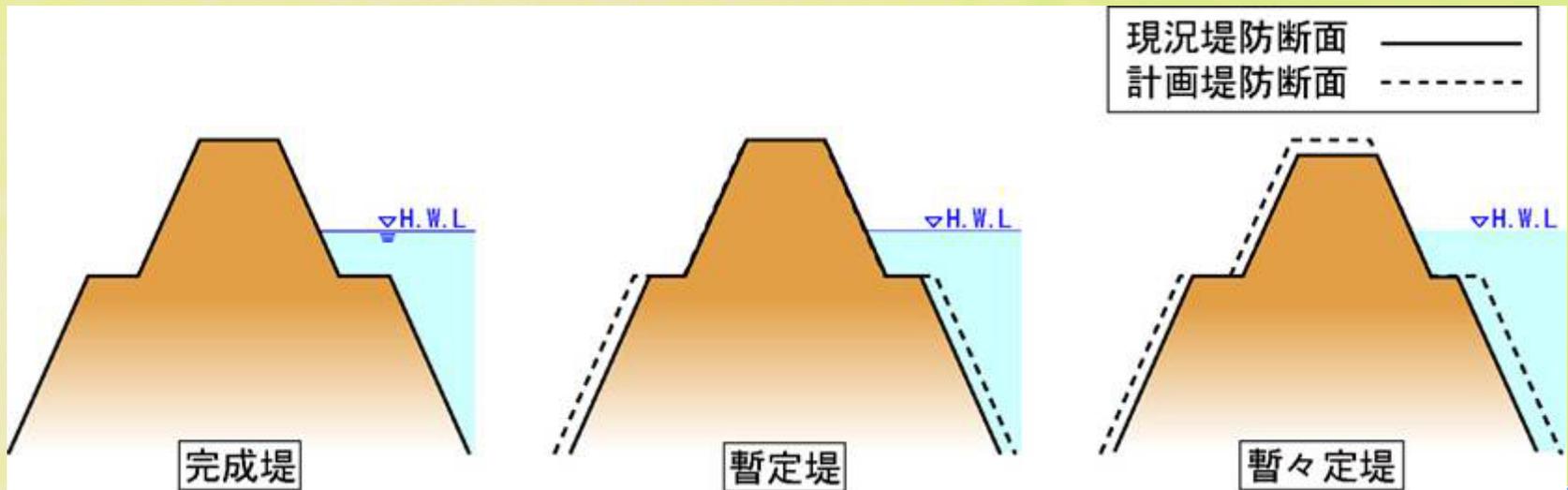
しかし、平成12年度時点で敷地管理者である土地改良区との調整中で工事が未着手であり、早期の関係者間の合意が困難なことから、本業務を中止し、治水対策・浄化対策について別途検討するとされた。

治水施設の現状

・堤防整備率

	完成堤	暫定堤	暫々定堤	不必要区間	計
堤防整備延長(km)	31.6	51.8	29.1	32.3	144.8
堤防整備率(%)	28.1	46.0	25.9	-	100.0

出典：河川便覧 平成14年度版



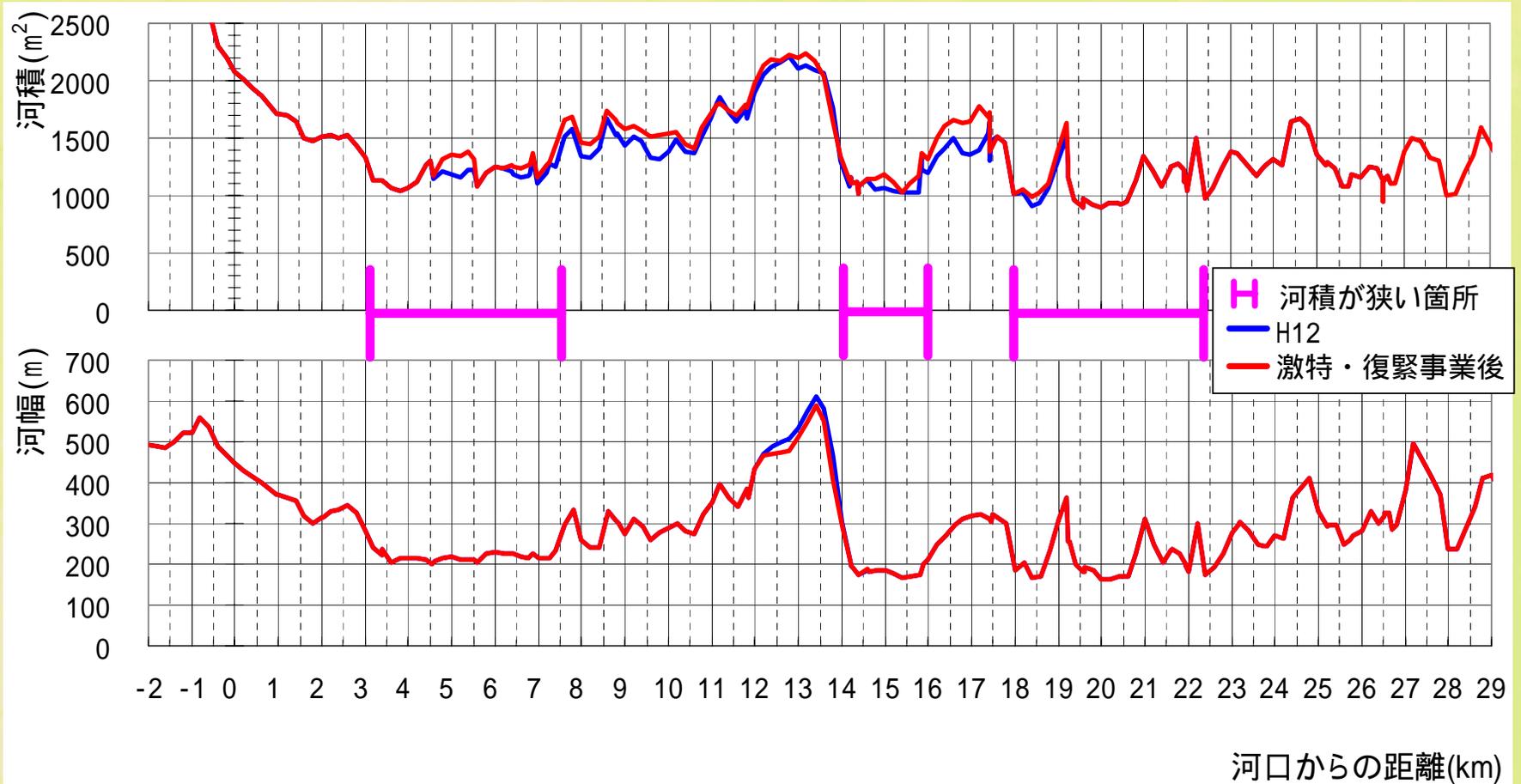
庄内川の堤防は、堤防整備延長112.5kmに対して31.6km、28.1%完成。

また、堤防高さが確保されているのは83.4km、74.1%。



治水施設の現状

・河積が狭い区間1 (下流)



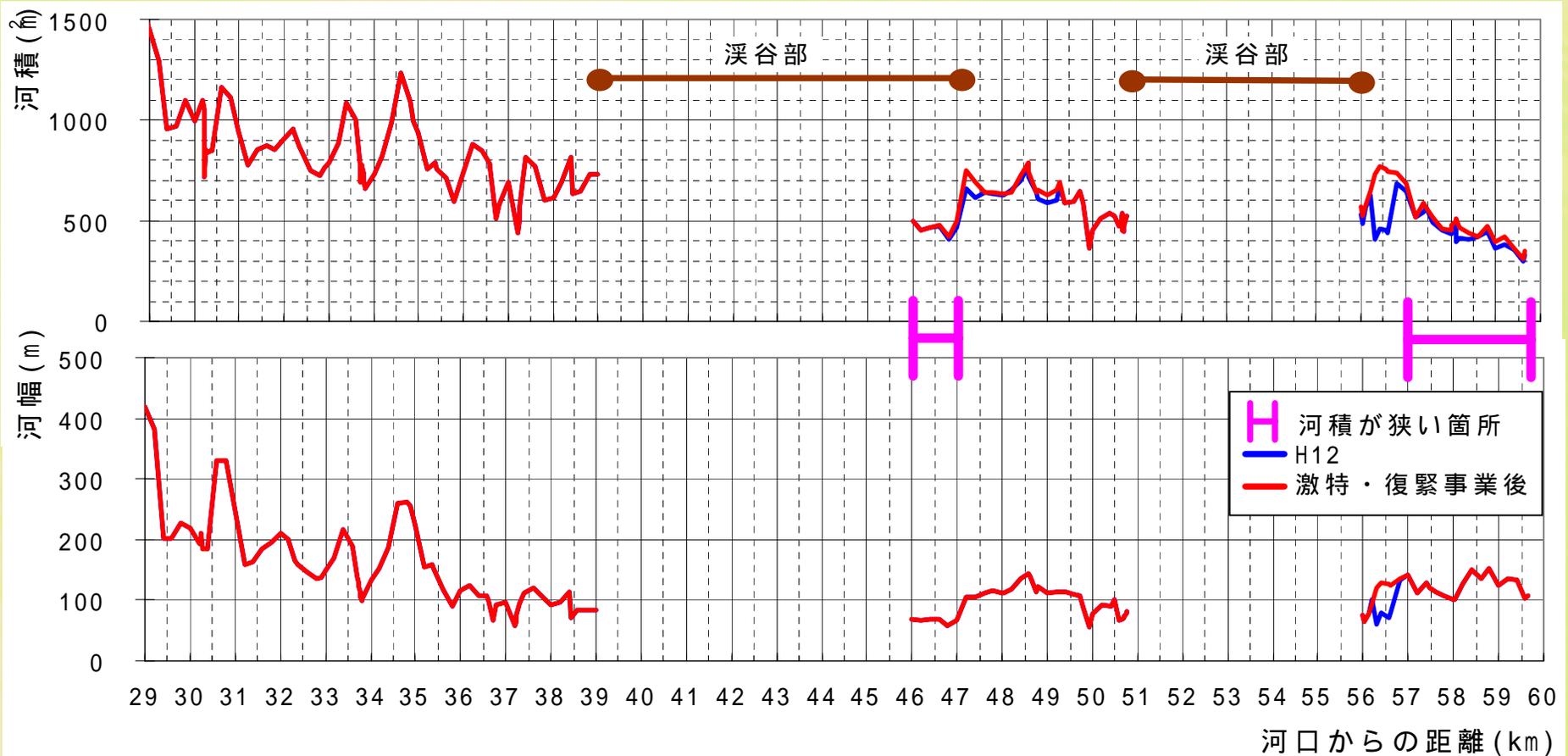
河口からの距離(km)

庄内川下流では、区間的に河積が狭い箇所があり、河積を確保するために断面の拡大が必要となっている。



治水施設の現状

・河積が狭い区間2 (上流)

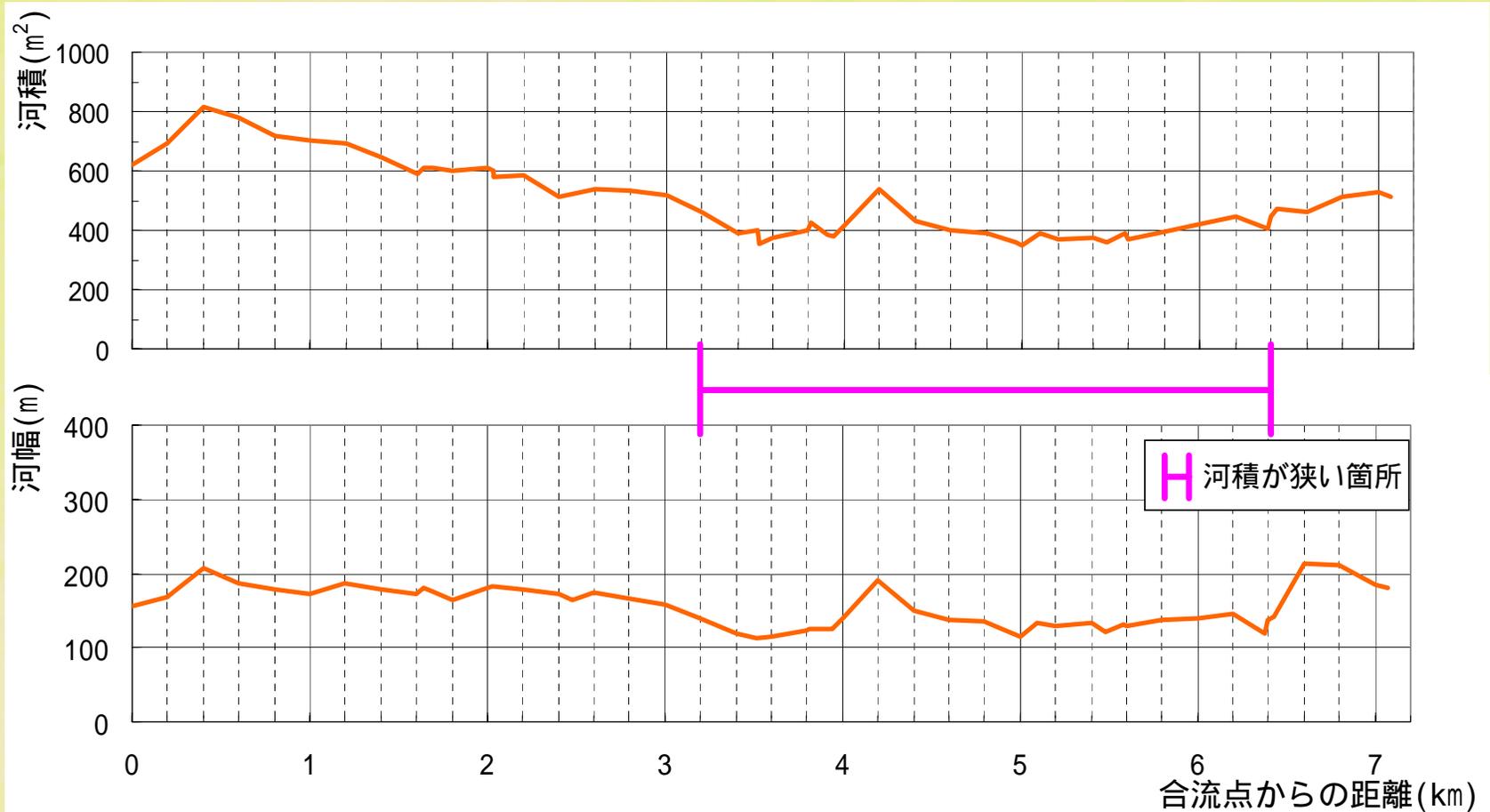


多治見・土岐では、下流渓谷部の河積が狭いため、市街地も水位上昇の影響を受ける。
また、庄内川(上流)および土岐川では狭窄部が散在している。



治水施設の現状

・河積が狭い区間3 (矢田川)

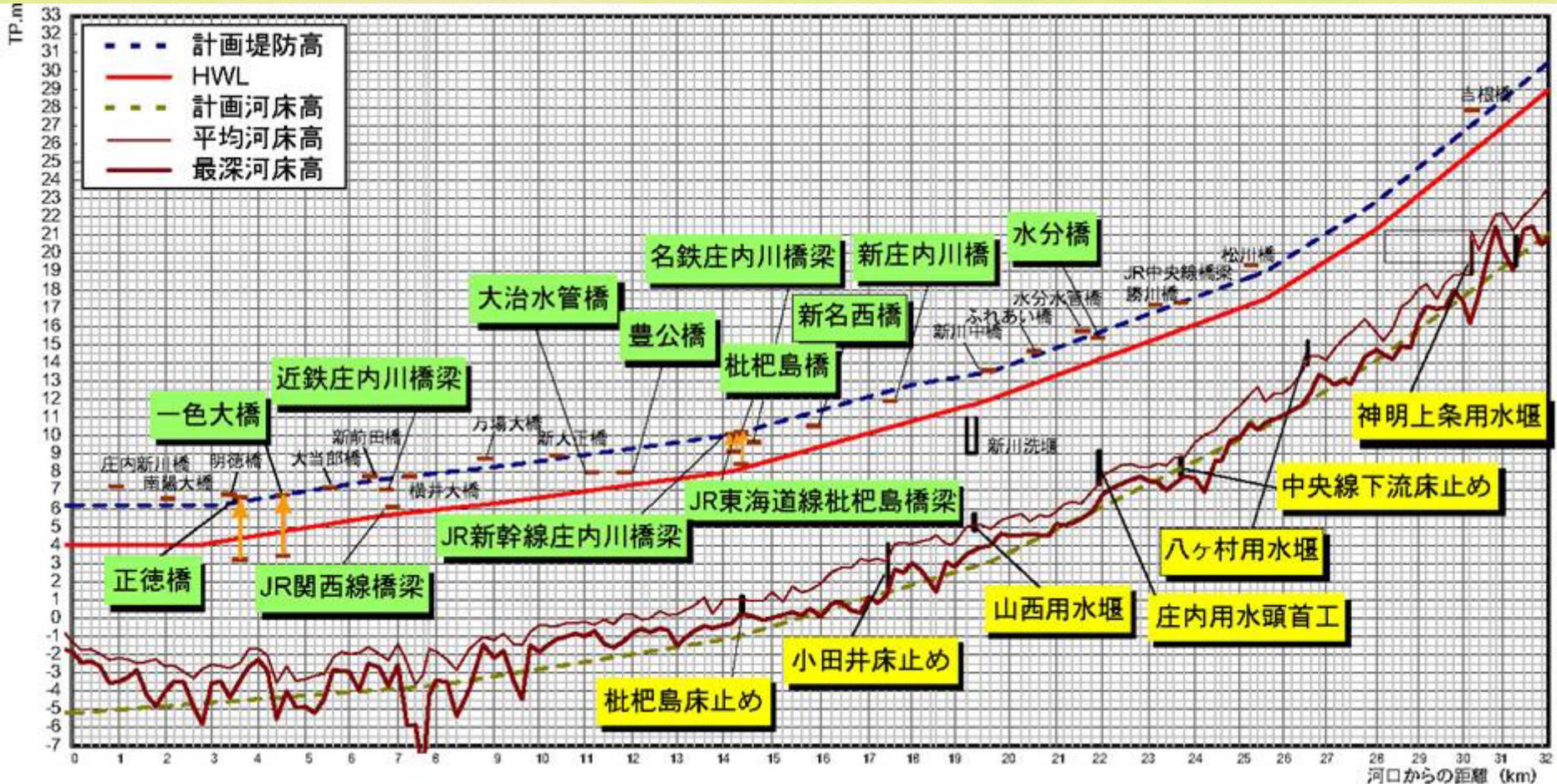


矢田川では、3.2～6.4k区間で河積が狭い箇所となっている。



治水施設の現状

・河道横断構造物による通水障害区間1 (下流)

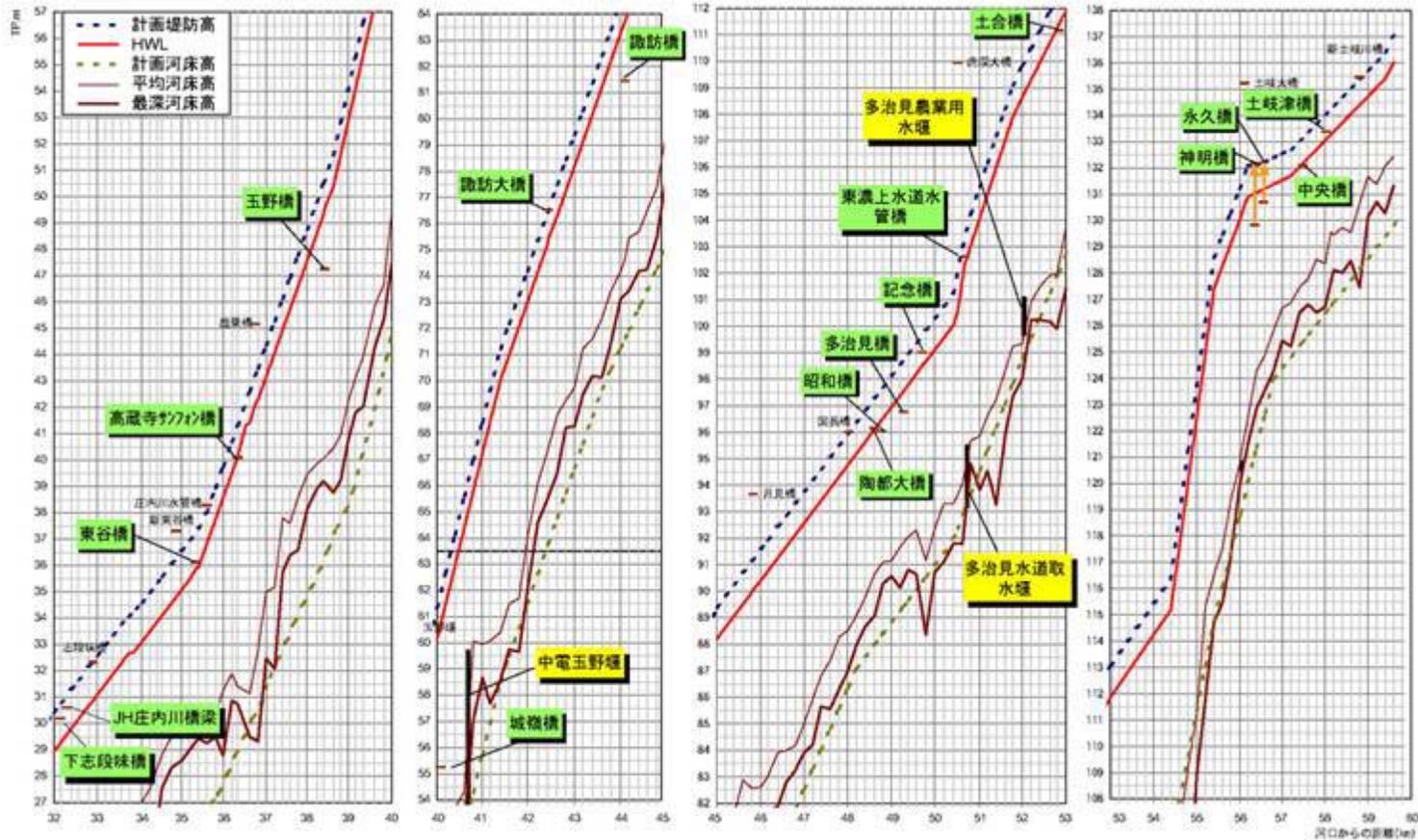


庄内川下流では桁下余裕高が不足している橋梁が13橋ある。また、下流部の全ての堰・床止め(7箇所)が計画河床高より高い位置に設置されており、障害要因となっている。



治水施設の現状

・河道横断構造物による通水阻害区間2 (上流)

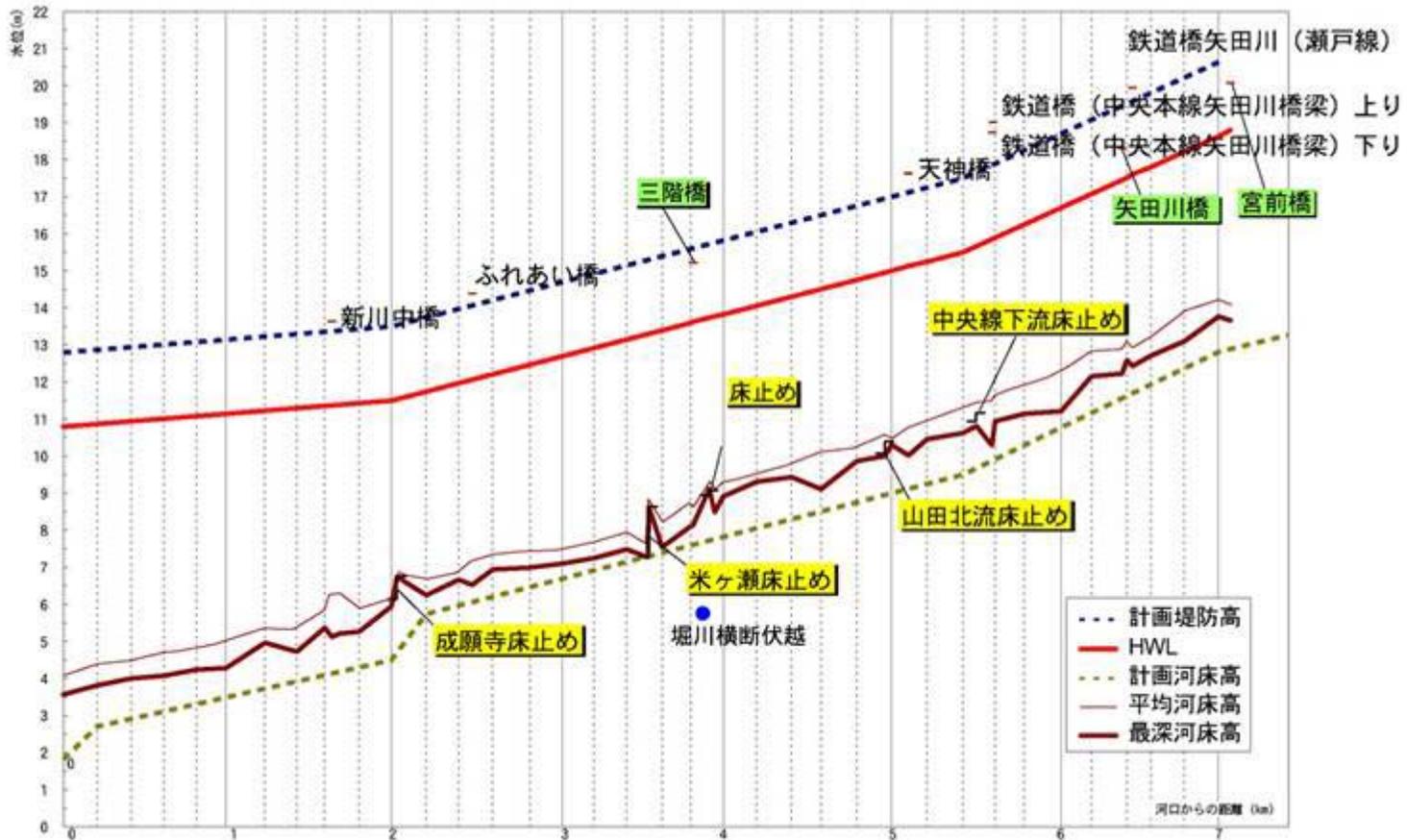


庄内川上流および土岐川では桁下余裕高が不足している橋梁が18橋ある。また、全ての堰(3箇所)が計画河床高より高い位置に設置されており、阻害要因となっている。



治水施設の現状

・河道横断構造物による通水障害区間3 (矢田川)



矢田川では桁下余裕高が不足している橋梁が3橋ある。
また、全ての床止め(5箇所)が計画河床高より高い位置に設置されており、障害要因となっている。



治水施設の現状

・水衝・洗掘・漏水区間1 (下流・矢田川)



庄内川下流における水衝・洗掘で重要な箇所は以下の通り

重要度A: 1箇所 重要度B: 10箇所

漏水個所で重要な箇所は以下の通り

重要度A: 6箇所 重要度B: 4箇所



治水施設の現状

・水衝・洗掘・漏水区間2(上流)

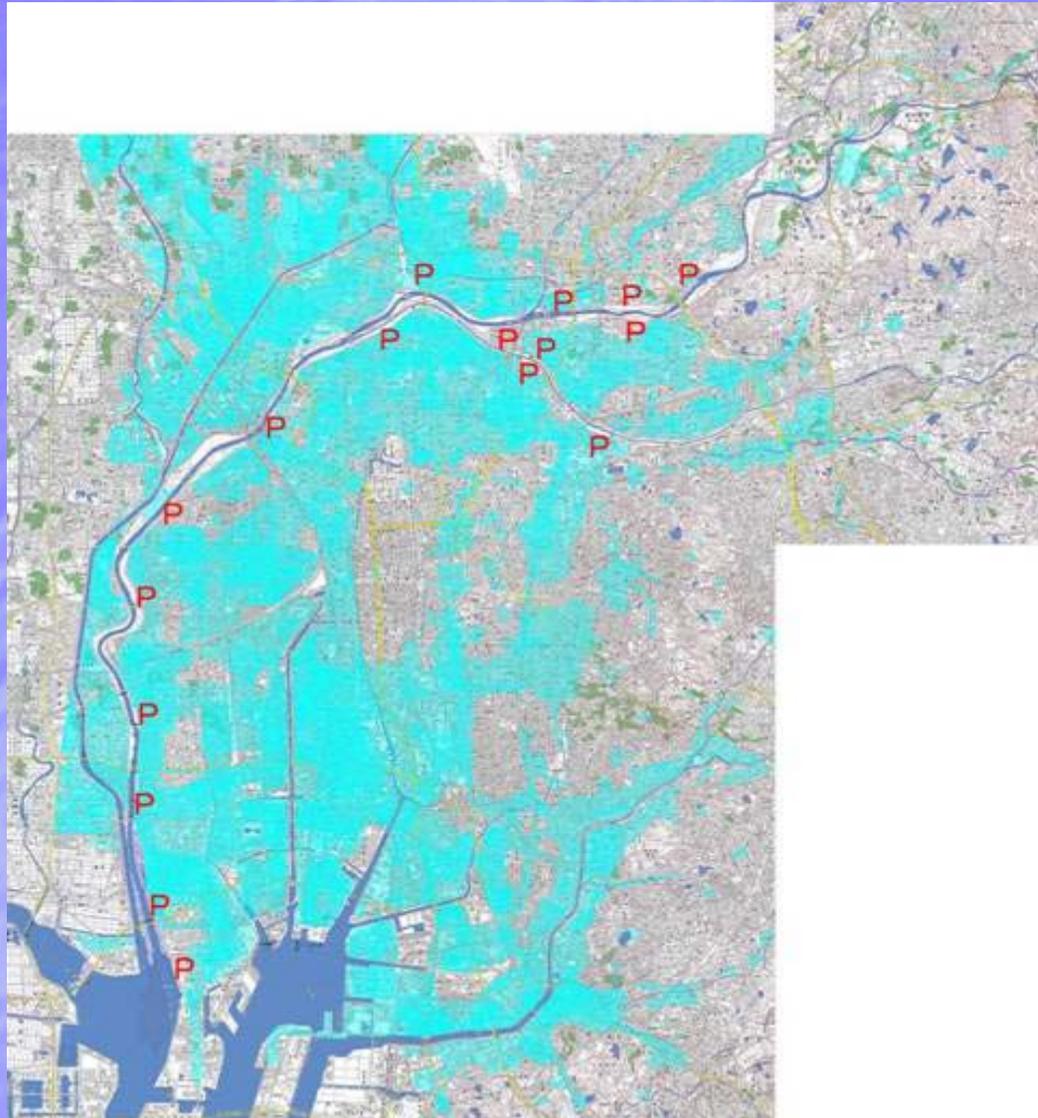


土岐川における水衝・洗掘で重要な箇所は以下の通り
重要度A：1箇所 重要度B：10箇所
漏水箇所として重要な場所はない。



内水浸水区域

・浸水実績



東海豪雨を含む既往洪水による愛知県(庄内川下流域)の浸水実績図

洪水時には庄内川の水位が高いため庄内川へ直接自然排水できない地域があります。

これらの地域では、既往洪水により浸水被害が頻繁に発生しています。

H12. 9.12洪水

H 3. 9.19洪水

S51. 9. 9洪水

S49. 7.26洪水

P: 排水機場

出典：愛知県資料



内水ポンプ排水

・内水排除区域



下水道整備により小河川が暗渠化されるなど、自己流域での排水が困難な流域からのポンプ排水が左岸に集中している。



名古屋市の浸水対策

内水対策は河川だけで行うのではなく、流域の市町といっしょに行います。

名古屋市では、雨水を一時的に貯留したり、地下に浸透させることによって、短時間に大量の雨水が下水管や河川に流れ出さないようにする雨水流出抑制を積極的に推進しています。

また、公共施設での実施とともに民間の開発事業においても協力をお願いしています。



出典：名古屋市ホームページ

名古屋市の浸水対策

・名古屋市緊急雨水整備計画

基本的な考え方

国、愛知県によるおおむね5年間の河川激甚災害対策特別緊急事業(庄内川、新川、天白川)の進捗に整合させながら事業を実施する。

今回、特に甚大な被害が集中し、緊急の対策を要する地域、または都市機能の集中する地域を対象とする。

原則として、上記地域において1時間60mmの降雨に対応できるようにレベルアップすることにより、今回と同様な降雨に対して、浸水被害を最小限にとどめる。

緊急雨水整備計画の事業内容

貯留管の設置：17箇所(約197,000m³)

ポンプ場の増強改築：10箇所(約89m³/s)

貯留施設：5箇所(約23,500m³)

その他：暗渠増強、河川改修、ため池・河川浚渫

出典：名古屋市上下水道局、緑政土木局資料



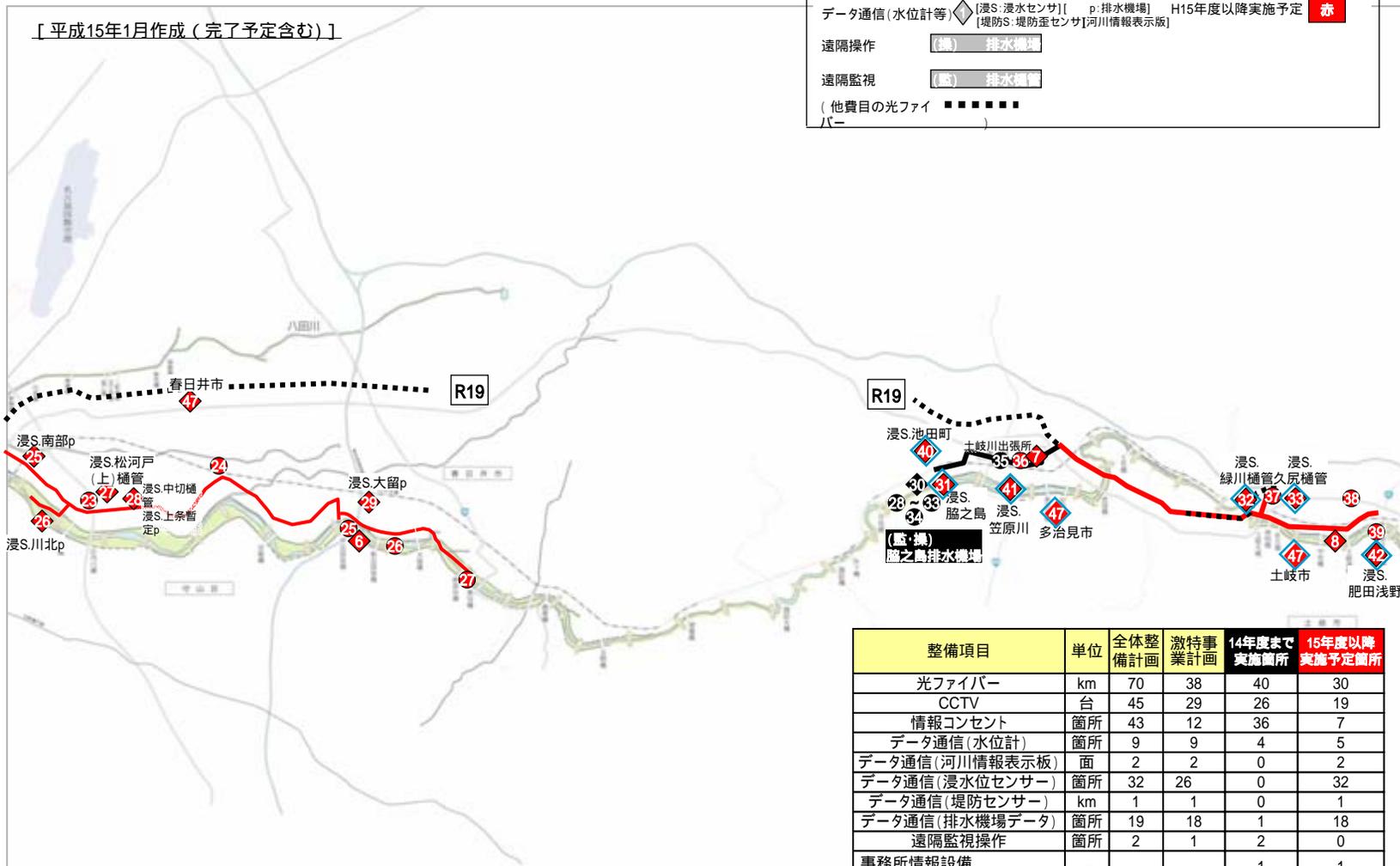
防災情報システム

IT施設整備計画図(上流)

[平成15年1月作成(完了予定含む)]



凡例	
光ファイバー	— H14年度までに実施(完了予定含む) ■
CCTV	○
データ通信(水位計等)	◇ [浸S:浸水センサ][p:排水機場] H15年度以降実施予定 [堤防S:堤防歪センサ]河川情報表示版
遠隔操作	(機) 排水機場
遠隔監視	(感) 排水機場
(他費目の光ファイバー)	■■■■■

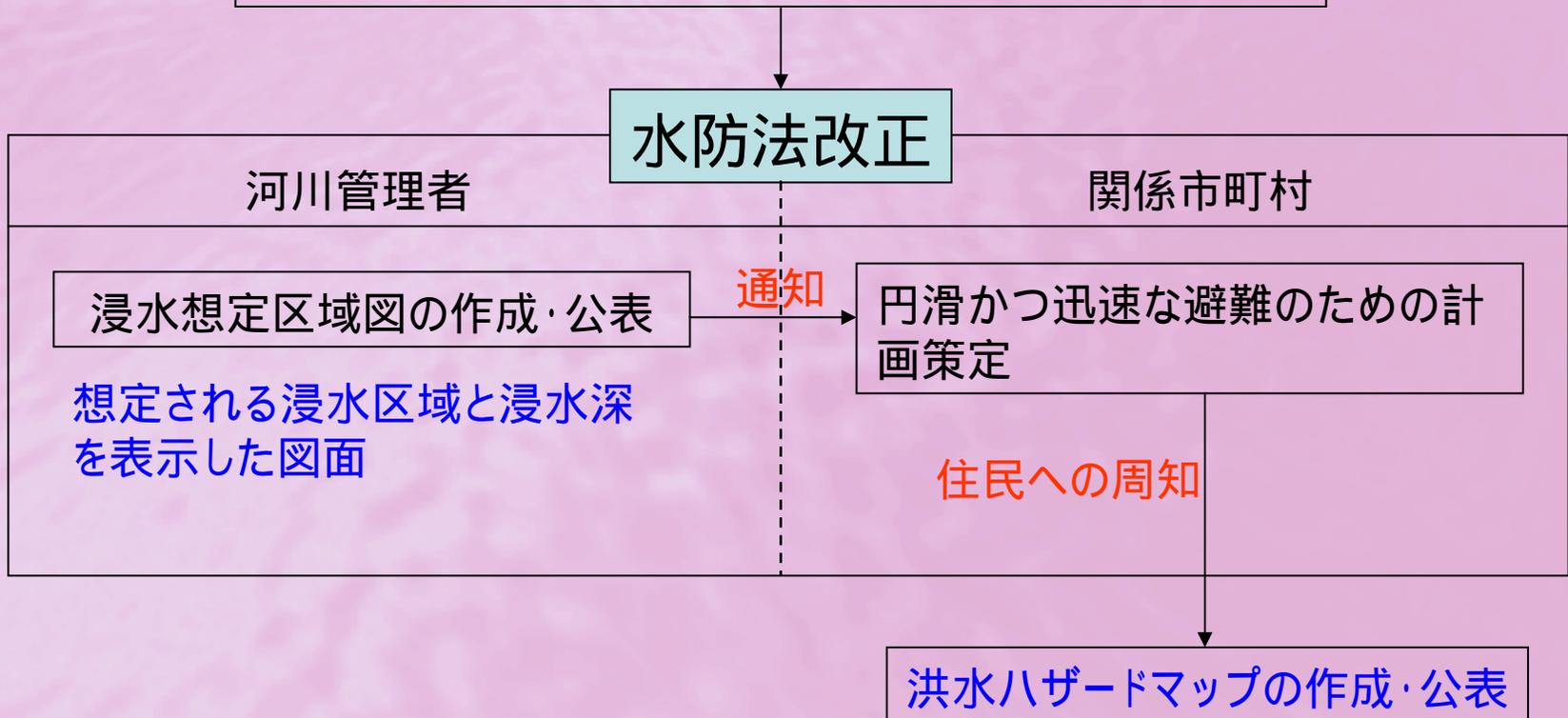


整備項目	単位	全体整備計画	激特事業計画	14年度まで実施箇所	15年度以降実施予定箇所
光ファイバー	km	70	38	40	30
CCTV	台	45	29	26	19
情報コンセント	箇所	43	12	36	7
データ通信(水位計)	箇所	9	9	4	5
データ通信(河川情報表示板)	面	2	2	0	2
データ通信(浸水水位センサー)	箇所	32	26	0	32
データ通信(堤防センサー)	km	1	1	0	1
データ通信(排水機場データ)	箇所	19	18	1	18
遠隔監視操作	箇所	2	1	2	0
事務所情報設備(自治体等データ交換含む)	式	1	1	1(事務所)	1(自治体)

31~33 40~42の浸S 及び47の事務所情報設備(2箇所:多治見市と土岐市)は、改修費による整備(激特へは計上しない)

浸水想定区域図の公表による ハザードマップ作成の支援

- ・都市型水害対策に関する緊急提言
- ・河川審議会答申「今後の水災防止の在り方について」



参考資料: 「水防法の概要」「水防法改正の内容」「都市型水害対策に関する緊急提言」
(国土交通省河川局ホームページ)

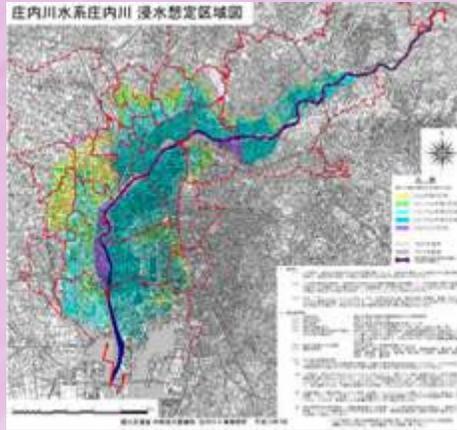


浸水想定区域図の公表による

ハザードマップ作成の支援

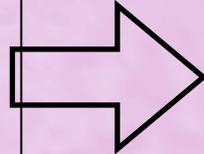
名古屋市の例

浸水想定区域図
[河川管理者が作成・公表]



浸水想定区域図
庄内川中下流域[平成13年7月公表]

洪水ハザードマップ
[市町村が作成・公表]



西枇杷島町の例

西枇杷島町 災害に備えるハザードブック
[西枇杷島町 2002.8]より抜粋



庄内川・新川洪水ハザードマップ
(名古屋市中村区)
[平成14年6月1日時点]より抜粋

